

シヅカ

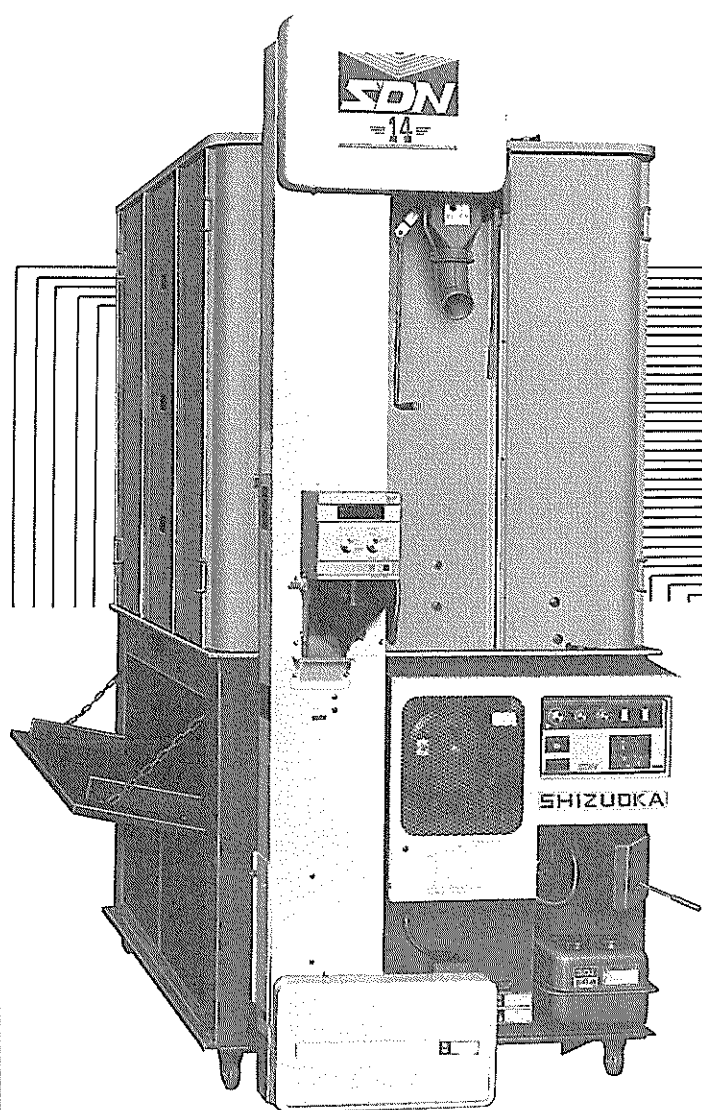
H

シヅカドライ ナイス

SDN 10
12
14

米麦用循環型乾燥機

■取扱説明書



●安全鑑定適合機

安全鑑定番号

- SDN-10 1320033
- SDN-12 1320034
- SDN-14 1320035

は じ め に

この乾燥機は、少しでも使う人の負担を少なくするため取り扱いも簡単に、また故障も少ないように設計、製作されております。正しい取り扱い方で最高の性能を発揮して頂くため、この「取扱説明書」には、正しい使い方と注意事項がくわしく書いてあります。お使いになる前に必ずお読みください。

この乾燥機が最高の性能を発揮するためには、穀物の性状や作業環境が整っていることが条件になっています。

しかし、実際の作業条件は地域によって異なりますし、また、年によって穀物の出来、不出来もあります。どんな時にも良い仕上りの米、麦になるよう、この「取扱説明書」を良くお読み頂き、この機械の特性を生かして合理的な作業を行ってください。

なお、ご不明の点がございましたら、ご購入先または弊社の営業所か本社(営業部・営農推進課)にお問い合わせください。

本 社	〒437	袋 井 市 山 名 町 4 - 1	☎袋	井<0538> 42-3114	FAX<0538> 43-3547
札幌営業所	〒065	札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号	☎札	幌<011>781-2234	FAX<011>781-1886
秋田営業所	〒010	秋田市泉登木101(田村ビル105号)	☎秋	田<0188> 23-9476	FAX<0188> 65-1942
仙台営業所	〒989-61	古川市稲葉字亀ノ子50-1	☎古	川<0229> 23-7210	FAX<0229> 24-1679
新潟営業所	〒950	新潟市姥ヶ山1丁目5番30号	☎新	潟<025>287-1110	FAX<025>287-1108
宇都宮営業所	〒320	宇都宮市築瀬町榎内1568	☎宇	宮<0286> 37-3055	FAX<0286> 35-5720
東京営業所	〒270-01	流山市向小金新田196-1	☎	柏<0471> 74-2231	FAX<0471> 73-9638
中部営業所	〒437	袋 井 市 高 尾 2 6 3 0	☎袋	井<0538> 43-2251	FAX<0538> 43-2250
北陸営業所	〒920-03	金沢市神野町10-1-1	☎金	沢<0762> 49-6177	FAX<0762> 49-6067
大阪営業所	〒561	豊中市名神口1丁目11番16号(岸岡ビル4階)	☎大	阪<06> 862-5701	FAX<06> 862-5988
広島営業所	〒731-01	広島市安佐南区八木2丁目18番11号	☎広	島<082>873-5626	FAX<082>873-6447
四国営業所	〒765	善通寺市与北町644-4	☎善 通	寺<0877> 62-0724	FAX<0877> 62-0806
九州営業所	〒830	久留米市野中町1332	☎久 留	米<0942> 32-4495	FAX<0942> 35-2434

も く じ

1. 主要諸元	2
2. 全体図と各部のなまえ	3
3. 運転前の準備と確認	4
●電気●燃料●送風機●設置場所●試運転	
4. 張込作業	8
5. 乾燥作業	10
6. 排出作業	13
7. 火災予防上の注意	14
●安全チェック	
8. 保守と点検	16
●手入れ箇所と手入れ法	
9. シーズン前の運転準備	19
●Vベルトの寸法と掛け方●プーリー寸法●バーナーの点検	
10. 便利な別売部品(オプション)	22
11. 故障と対策	24
●O・Kシグナル点灯する場合 24ページ	
●O・Kシグナル点灯しない場合 25・26・27・28ページ	
12. 各部の接続と定格	29
●各中継コード●各モーター容量●ヒューズ定格●サーマルリレー設定値	
13. 据付寸法図	30
●機体寸法	
■修理・有料点検履歴控	31
●点検や修理の都度記入してください。	

1. 主要諸元

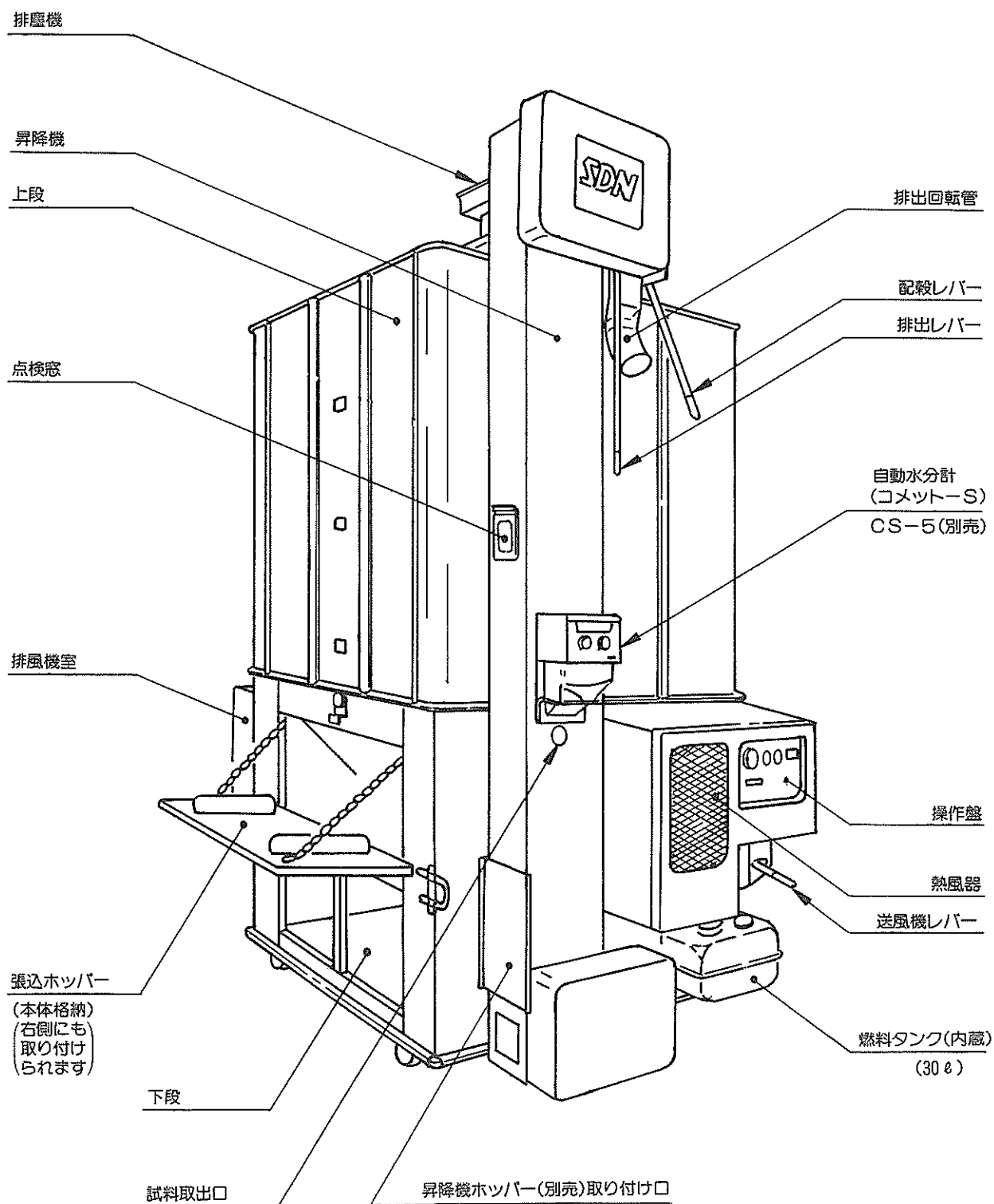
農業機械公正取引協議会規約による。

当 社 型 式			SDN-10	SDN-12	SDN-14
収 容 量			380～1,000kg ※(250kg) (3.8石～10石) 容積重560kg/㎡の穀	380～1,200kg ※(250kg) (3.8石～12石) 容積重560kg/㎡の穀	380～1,350kg ※(250kg) (3.8石～13.5石) 容積重560kg/㎡の穀
機 体 寸 法	全 長		2,510mm		
	全 幅		1,460mm(ホツパー開口時)		
	全 高	本 体	2,270mm	2,450mm	2,590mm
		昇 降 機	2,220mm	2,400mm	2,540mm
質 量 (重 量)			440kg	453kg	463kg
送 風 機	型 式		FH-380		
	形 式		軸流型 φ380mm		
	常 用 回 転 数		2,100r.p.m.		
火 炉 (バーナー)	型 式		N1-SDNS		
	形 式		ガンタイプ		
	点 火 方 式		自動点火		
	燃 焼 量		0.3～2.2ℓ/時		
燃 料	使 用 燃 料		白灯油		
	タ ン ク 容 量		本体内蔵 30ℓ		
所 要 動 力	搬 送	単 相	200V0.65KW		
		三 相	200V0.65KW		
	循 環		単相200V0.06KW		
	排 塵 機		単相200V0.06KW		
	排 出 ス ロ ヲ ー		HH-14A 単相、三相200V0.4KW(別売)		
	水 分 計		CS-5 単相200V0.045KW(別売)		
	そ の 他		0.1KW		
	最大同時使用合計		0.915KW(1.27KW…スロワー使用時)		
性 能	張 込 時 間		約19分(水分24%の穀)	約22分(水分24%の穀)	約25分(水分24%の穀)
	排 出 時 間		約23分(水分14.5%の穀)	約27分(水分14.5%の穀)	約30分(水分14.5%の穀)
	毎 時 乾 減 率		0.7～1.0%/時(穀：24～14.5%、麦：30～12.5%)		
	昇 降 機		5 t/時(穀：水分24%の時)		
諸 装 置	安 全 装 置		●サーマルリレー●穀づまりセンサー●タイマー●満量センサー●炎センサー ●ヒューズ●サーモスタット●圧力スイッチ(バーナー部)●風圧スイッチ		
	運 転 制 御 方 式		自動温度制御(サーミスター検知によるON-OFF制御)		
電 気 契 約			☆100V30A以上, 単相200V20A以上, 三相200V 1 kW以上		

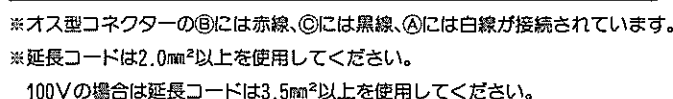
※(250kg)は超最少収容量、乾燥時注意が必要です。(P-11参照)

☆100V電源使用の場合は、100V専用トランス(別売)が必要です。

2.全体図と各部のなまえ

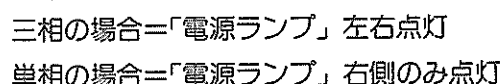


①電源の結線法



②接続の確認

- ①各差込プラグ・コネクタが、所定の場所にきちんと差し込まれていることを確かめてください。
- ②電源コードを結線し、農舎内の電源スイッチを入れてください。



- 三相の場合
電源ランプの左右の明るさが違うときは、欠相又は接触不良が考えられますので、点検してください。
- 「O・Kシグナル」が点灯したときは24ページを参照して調べてください。

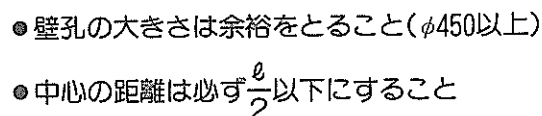
③燃料の点検

- ①燃料タンクに白灯油を給油し、パイプの油もれ、ナットのゆるみを点検してください。
- ②燃料は良質の白灯油を使用し、乾燥途中で燃料切れないようにしてください。燃料切れはポンプの空打ち等、故障の原因となります。
ガソリン・軽油・不良灯油(変質灯油・不純灯油)は絶対に使用しないでください。異臭米、カーボン(すす)発生の原因になります。
- ③燃料を補給する時は、必ず機械を停止させてから行ってください。

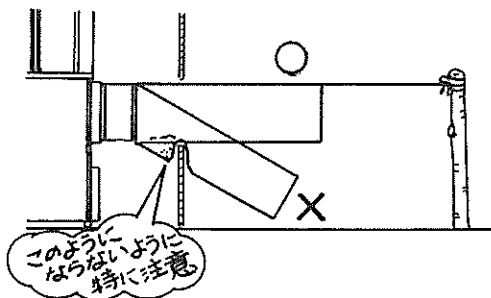
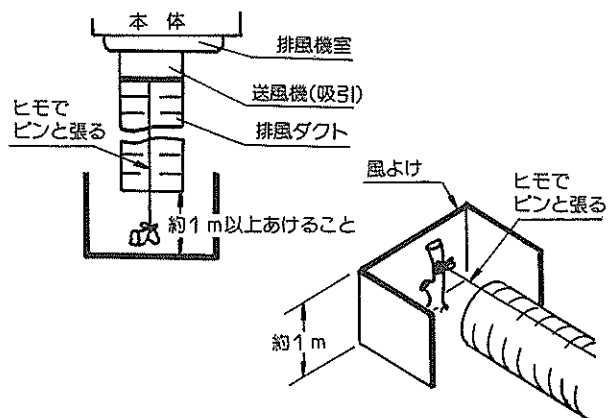
- 燃料は毎年新しい白灯油を使用してください。
 昨年の灯油は使用しないでください。
 古い灯油へつぎたして使用すると水やゴミなど
 で火災等燃焼不良の原因となります。

(2)送風機(吸引)関係の点検

- ①排風ダクトを通す孔は充分大きく開けてください。



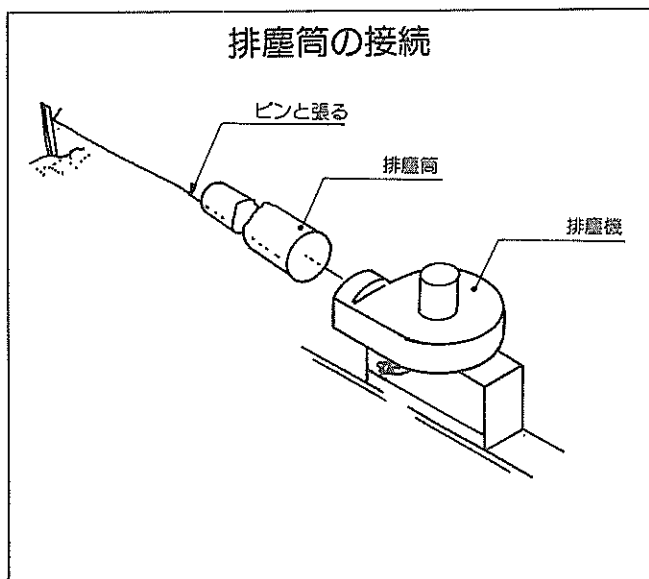
- ②逆風がダクトに吹き込むような場合は、「風よけ」を作ってください。



※ダクトは、まっすぐにし先端がバタバタしないようヒモで結んでください。

逆風の吹き込みや、ダクトの折れ曲りがあると、吸引風量が減り、乾燥性能の低下やカーボン発生の原因となりますので注意してください。
又、風圧スイッチが働いて、点火できないことがあります。

- ③排塵筒が途中で折れ曲ると、ホコリが出なくなるります。排塵筒は、斜め下向きにヒモでピンと張ってください。

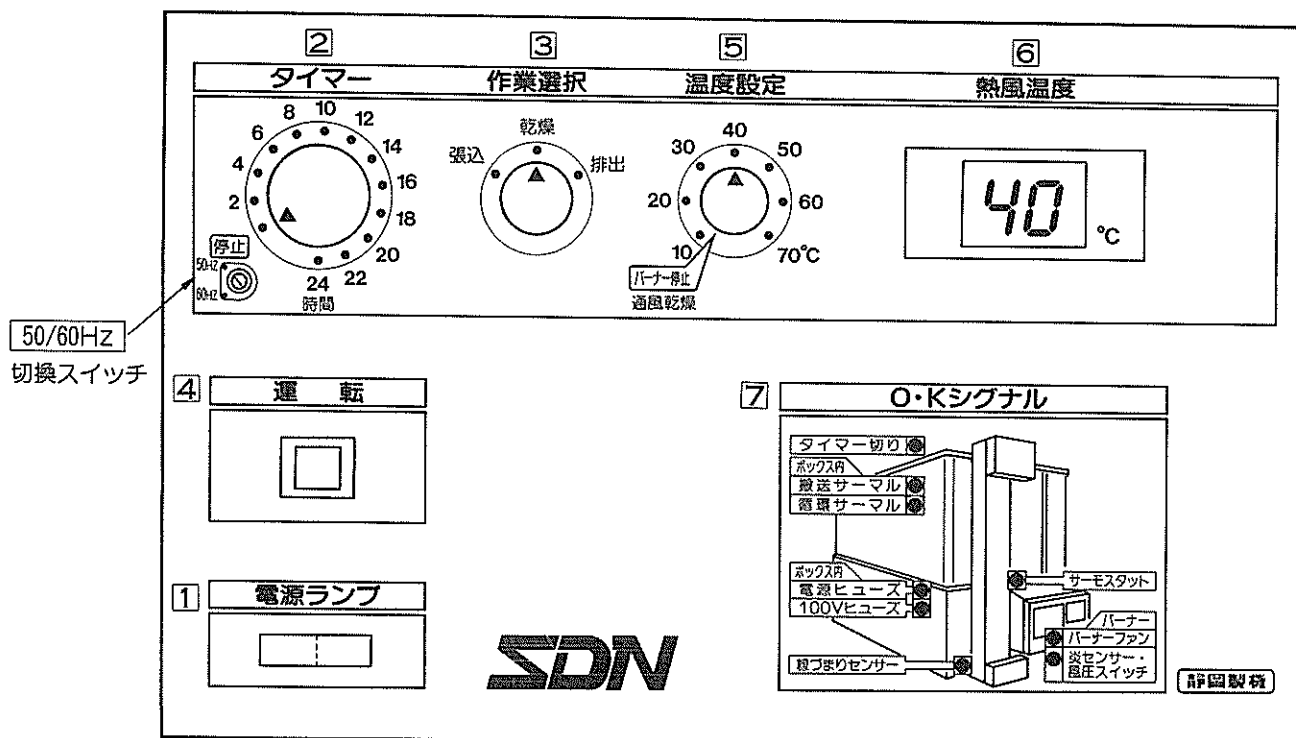


(3)乾燥機設置場所の点検

- ①乾燥機は壁から最低30cm以上すき間をあけてください。
- ②外部からの風の吹き込みは、乾燥性能を悪くしますので、強い風の日は、直接乾燥機(特に熱風器側)に風が当たらないように窓を閉めるか、しゃ閉板をおいてください。
- ③乾燥機を複数並べて使用する場合は、乾燥機と乾燥機との間は、最低50cm以上あけてください。
- ④火災に関する設置場所の注意事項は、14ページの「火災予防上の注意」の項をご参照ください。

(4)試運転

操 作 盤



機能説明

①電源ランプ

元電源を入れると点灯します。

②タイマー

セットした時間だけ乾燥機は運転します。

50/60Hz切換スイッチは使用地域に合わせてあります。

③作業選択

作業内容によって選択をします。

①張込……………穀(麦)を乾燥機に入れる。

②乾燥……………穀(麦)を乾燥する。

③排出……………穀(麦)を乾燥機から出す。

④運転

乾燥機を起動させます。

⑤温度設定(乾燥運転)

乾燥温度の設定をする。

●設定温度は11ページの温度表に従ってください。

●バーナー停止………通風乾燥になります。

(注)外気温度より低い値に設定しますと運転中に異常表示になります。(25ページ…HH点滅の項参照)

⑥熱風温度(乾燥運転)

乾燥機内温度を表示します。

⑦O・Kシグナル

乾燥機の状態をモニターします。(24ページ参照)

■ 作業選択 ツマミ操作上の注意

運転ボタンを押したあとで作業選択ツマミをまわしますと、下の表のモーターがまわります。点検の際は十分注意してください。

運転ボタンを押したあとで、作業選択ツマミをまわさないでください。

モーター 作業選択	搬 送	排 塵	循 環
張 込	○	○	×
乾 燥	○	○	○
排 出	○	○	○

試運転動作 (穀物の入っていない状態)

	手 順	確 認 事 項	チェック	処 置
準 備	①電源用プラグを差し込む	●電源ランプ点灯(三相は左右同じ明るさが正常) ●排出レバーを「張込・乾燥」にする。 ●配穀レバーを 満量 張込 にする。		
張 込 作 業	①タイマーを右にまわす ②作業選択ツマミを 張込 にする ③ 運転 ボタンを押す ④タイマーを 停止 にする	●搬送モーター・排塵機モーター作動→昇降機で回転方向確認 三相200Vでモーター逆回転の場合 昇降機/バケットベルトが逆転の場合は、 電源コードのコネクター部で、アース 線以外のどれか2線を入れ換えて直し てください。 ●全停止		
乾 燥 作 業 (1)	①タイマーを右にまわす ②作業選択ツマミを 乾燥 にする ③送風機レバーを「まわる」にする ④温度設定ツマミを40℃にする ⑤ 運転 ボタンを押す ⑥温度設定ツマミを バーナー 停止 にする ⑦タイマーを 停止 にする	●搬送・循環・排塵機の名モーター作動 ●バーナー着火 〈注〉①一度で点火しなかった場合にはタイマーを停止にし、もう一度①～⑤を繰り返してください。 ②穀物が入っていないときは温度が上がらなかつたり不安定の場合がありますが異常ではありません。 ●バーナー消火 ●全停止		
乾 燥 作 業 (2) 水 分 計 使 用	①タイマーを右にまわす ②作業選択ツマミを 乾燥 にする ③送風機レバーを「まわる」にする ④温度設定ツマミを40℃にする ⑤ 運転 ボタンを押す ⑥コメット-Sの電源を入れる ⑦電極が5回往復動作するのを確認 ⑧5回測定が終ると火が消える ⑨5分後に本機が停止することを確認 ⑩水分測定精度をチェックする ⑪タイマーを 停止 にする	●搬送・循環・排塵機の名モーター作動 ●バーナー着火 〈注〉①一度で点火しなかった場合にはタイマーを停止にし、もう一度①～⑤を繰り返してください。 ②穀物が入っていないときは温度が上がらなかつたり不安定の場合がありますが異常ではありません。 ●「電源」と「自動」の赤ランプ点灯 ●空運転のため「L」を表示します。 (詳細は別冊「自動水分計取扱説明書」を参照) ●測定終了と同時に消火する。 ●自動ランプが消える。 ●「コメット/パック」で水分測定精度をチェックする。 ●全停止		
排 出 作 業	①タイマーを右にまわす ②作業選択ツマミを 排出 にする ③ 運転 ボタンを押す ④タイマーを 停止 にする	●搬送・循環・排塵機の名モーター作動 ●排出スロワースイッチ「ON」でスロワー作動を確認(右回転が正常) ●全停止		

※毎年お使いになる前にこの手順で確認してください。

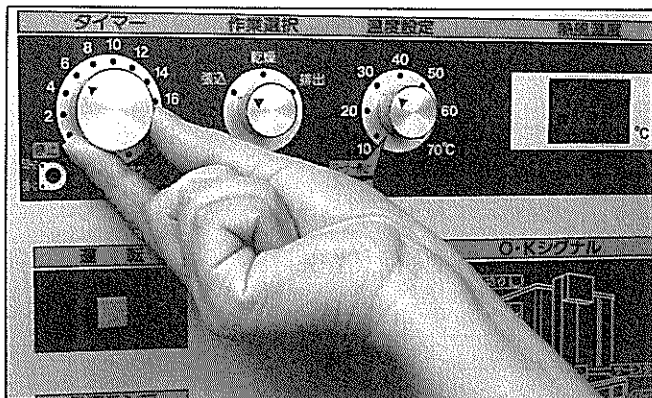
4.張込作業

(排出レバーが「張込・乾燥」であるか確認してください。)

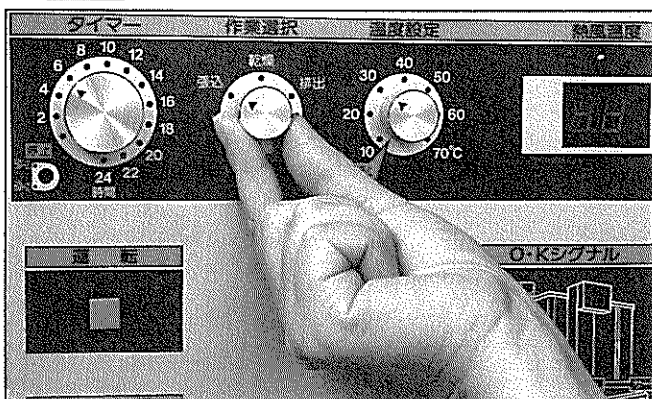
(1)運転操作

① タイマー をまわす。

2時間以内の場合は、一度それ以上まわしてから戻してください。

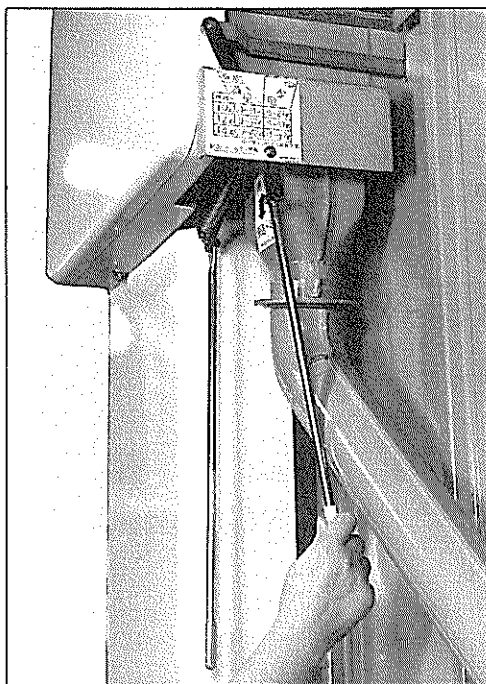


② 張込 にする。

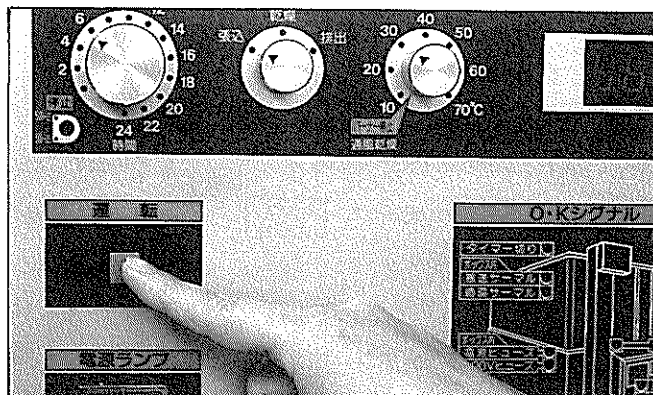


③ 配穀レバーを 張込 満量 にする。

排出レバーが「張込・乾燥」であるか確かめてください。

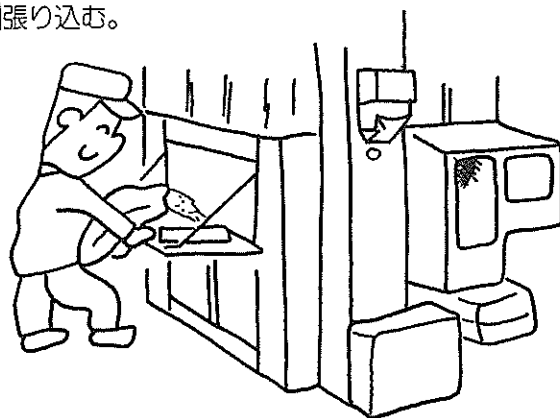


④ 運転 ボタンを押す。



■タイマーをまわして5～10秒後に運転ボタンを押してください。タイマーをまわした直後に運転ボタンを押すと、ブザーが鳴ることがあります。ブザーが鳴ったら一度タイマーを切って再運転してください。

⑤ 張り込む。



■張込ホツパーは左、右どちらへも付けることができます。

標準張込量—コンバイン袋数(粍)

型 式	SDN-10	SDN-12	SDN-14
最少袋数	12(8)	12(8)	12(8)
最高袋数	31	37	42

(コンバイン袋数は1袋約32kgで計算してあります。選別の程度や水分の多い少いにより10%程度変わります。)
開えい(粍殻が開いている粍)が多い場合は最少袋数での乾燥は脱びが増えますので避け、15袋以上で乾燥してください。

■水分16%以下の麦は7割以下の張り込みで乾燥してください。

■張込時の送風運転—送風機レバーを「まわる」にする。

(注) (粍とび)

張り込みの終了まぎわに排塵機より粍とびがある場合は、ゆっくり張り込んでください。

(2)確認と注意

■満量になるとブザーが鳴りますので張り込みを停止してください。

ブザーが鳴っても自動停止はしません。

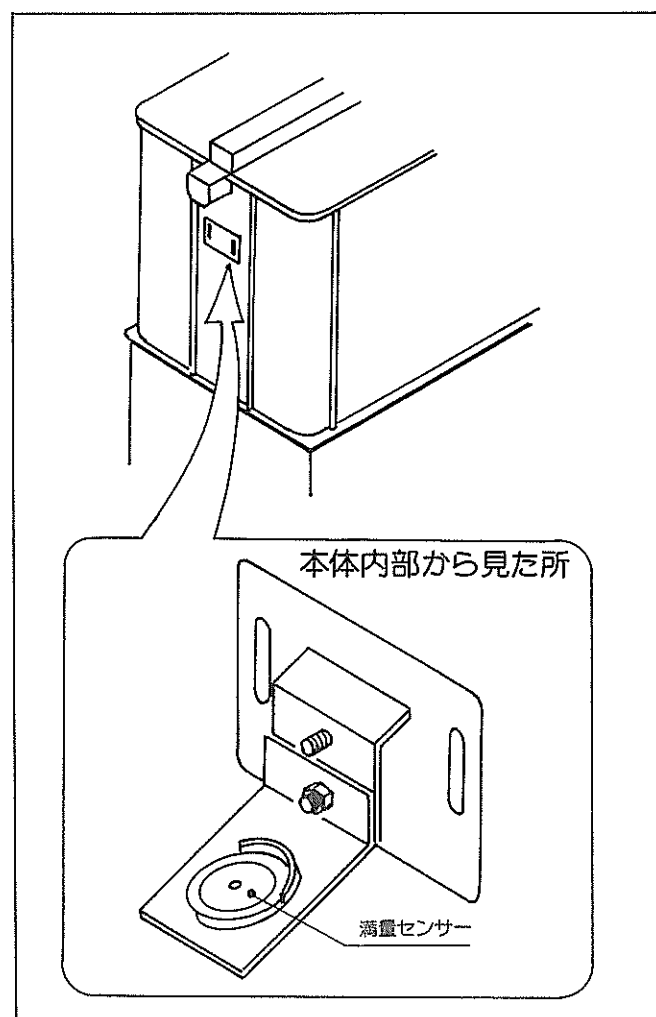
■高水分穀(麦)や選別の悪い穀(麦)の場合は、標準袋数まで入らないことがあります。

■コンバイン袋で2～3袋入りきらなかった場合には、乾燥開始後、量が減ってから追加張り込みしてください。1時間以内ならば乾燥ムラになりません。

※乾燥しながら張り込まないでください。

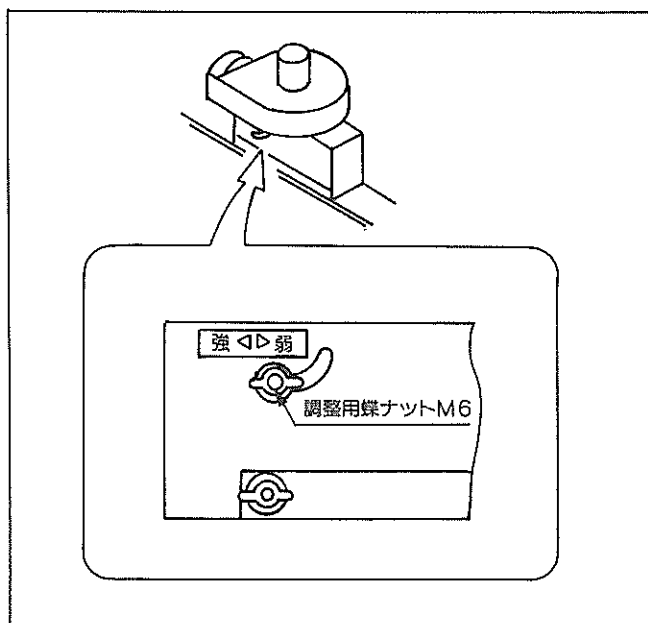
■満量センサーの調整方法

- 取付板の長孔とボルトネジで調整できます。



■排塵機の風量調節

- ①排塵機の風量は、調整用蝶ナットの位置を変えることで調節できます。



- 調整用蝶ナットをゆるめて調整してください。
- 「強」の方に動かせば排塵量が増え「弱」の方に動かせば排塵量が減ります。
- 出荷時は「強」に合せてあります。

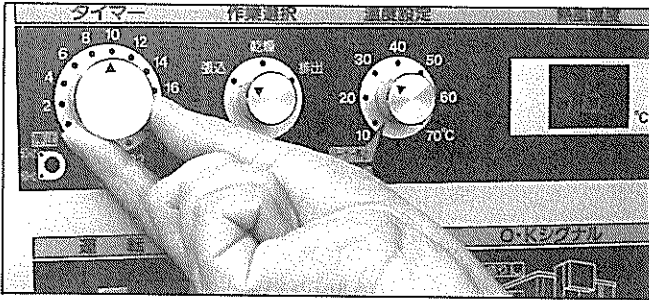
■送風機ベルトについて

試運転およびシーズン始めの運転前には送風機ベルトにクセがついていることがあります。その場合には、クラッチの切れが悪くなり音が発生することがあります。そのような時には、送風機レバーを「まわる」にして、約10分程度空運転させてから、ご使用ください。

5.乾燥作業

(1)運転操作（燃料タンクの灯油の量を確認してください。）

① **タイマー** をまわす。



■タイマー設定時間の計算

乾燥前の水分から目標とする仕上り水分を引き、それを0.9で割ってください。

$$\text{設定時間} = \frac{\text{乾燥前水分} - \text{仕上り水分}}{0.9}$$

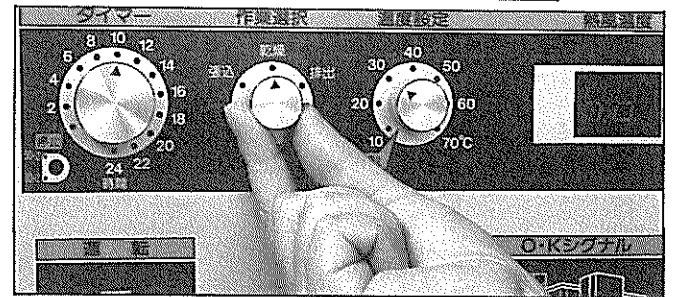
(例) 乾燥前の水分が24%、仕上り水分15%の場合

$$\text{設定時間} = \frac{24 - 15}{0.9} = 10 \text{時間となる。}$$

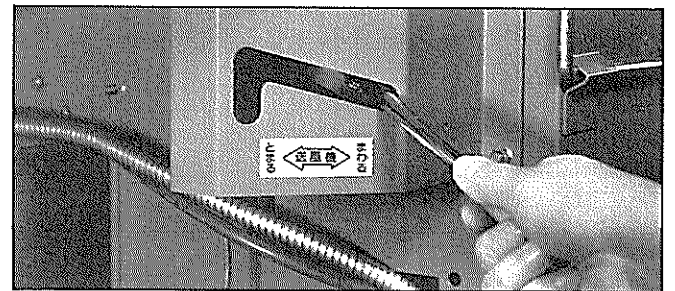
- 自動水分計コメットーSを使用する場合は、これより1～2時間ながめに設定してください。
- 追加乾燥時は、1時間当りの乾減率を0.5%位で計算してください。
- 2時間以内に設定する場合は、一度それ以上まわしてから戻して合わせてください。

② **乾燥** にする。

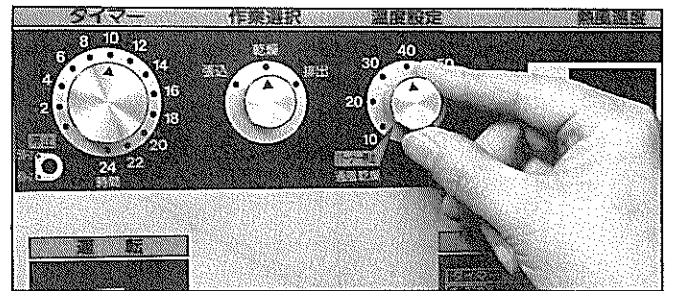
通風乾燥のときは、温度設定を **通風乾燥** にする。



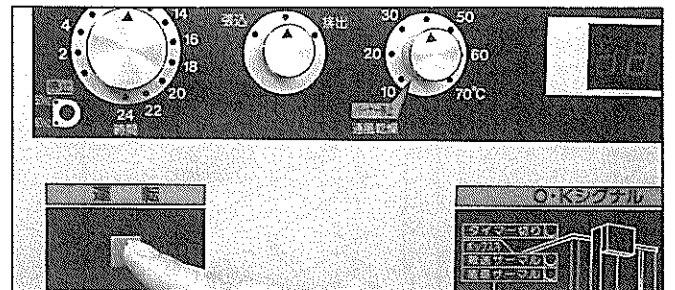
③送風機レバーを「まわる」にする。



④ **温度** を設定する。



⑤ **運転** ボタンを押す。(約1秒間)



- 一度で点火しなかった場合
タイマーを停止にし、もう一度①～⑤を繰り返してください。
- タイマーをまわして5～10秒後に運転ボタンを押してください。タイマーをまわした直後に運転ボタンを押すと、圧力スイッチが作動することがあります。（「バーナーファン」が点灯しブザーが鳴ります。）
- 運転ボタンは熱風温度の表示が出るまで（約1秒）押してください。
- 乾燥運転中は、バーナーが自動的についたり消えたりして温度調節をします。ついている時間と消えている時間は設定温度によって変わります。
- 乾燥中は、必ず張込ホッパーを閉じてください。開けたまま運転しますと、「風圧スイッチ」が作動してブザーが鳴ります。
- 点火不調で「炎センサー」の点灯を繰り返した場合は、バーナーを点検してください。再運転前に、燃焼室内の灯油を必ずふき取ってください。

■ 穀乾燥の温度表

コンバイン袋数 周囲温度	熱 風 温 度 (℃)			12・14石型のみ	14石型のみ
	8～14袋	14～21袋	21～31袋	31～37袋	37～42袋
30℃以上	36～40℃	39～44℃	43～49℃	48～53℃	52～56℃
25℃	33～38	37～42	41～47	46～51	50～54
20℃	30～36	35～40	39～45	44～49	48～52
15℃	27～34	33～38	37～43	42～47	46～50
10℃	24～32	31～36	35～41	40～45	44～48
5℃以下	22～31	30～34	33～37	36～40	

※コンバイン袋は1袋約32kgで計算してあります。

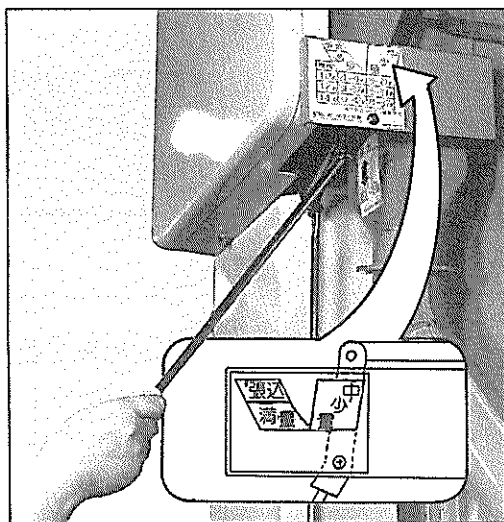
選別の程度や水分の多い少いにより10%程度変わります。

- 温度表には、巾をもたせてありますので、初回は低めで乾燥し、ようすをみながら徐々に高めて使用してください。極早生、早生種、早期米、過熟米(刈取遅れ)や、脱ぶ米が多量に混入した場合等は胴割しやすいので注意してください。(4～5℃低めとする)
- 雨降りや夜間運転の場合は空気が湿っていて乾燥効率が悪くなりますから、外気が直接流入するような場所(軒先等)での乾燥は、温度表より更に2～3℃高めの温度で乾燥してください。ただし、異常乾燥時は除きます。
- 超最少処理量8袋の時は上表の最低の温度で乾燥してください。

胴割れしやすい品種

アキヒカリ	キヨニシキ	ニホンマサリ
アキユタカ	コチビビキ	はつかおり
碧 風	ササミノリ	フジミノリ
イシカリ	サトホナミ	ホウネンワセ
オオセト	ともゆたか	
カツラワセ	トヨニシキ	など

[6] 配穀レバーをコンバイン袋数に合わせて調整する。



※張り込んだ後のレバーは満量か中少量のどちらかとなります。

機 種	レバー位置	満 量	中 少 量
SDN-10		約21～31袋	約8～21袋
SDN-12		約31～37袋	約8～31袋
SDN-14		約37～42袋	約8～37袋

[7] 自動水分計 [コメットーS] の設定をする。(自動水分計は別売) (詳細は別冊「自動水分計取扱説明書」をご覧ください。)

操作 穀物選択ツマミを設定する

↓
穀物選択は3つに分かれています。
どれかに正しく設定してください。

操作 停止水分(%)ツマミを設定する

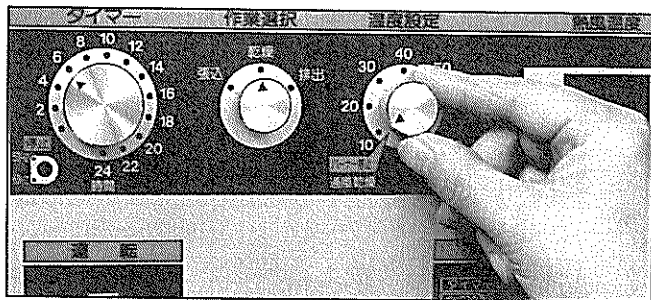
↓
設定は12.0～16.5%の0.5%きざみです。
他に2段乾燥用(18%)があります。

操作 電源スイッチを入れる

乾燥途中で電源を切らないでください。
いままでの記憶が失われてしまいます。

⑧乾燥途中の停止(手動停止)

温度設定を **バーナー停止** にして、2～3分後タイマーを **停止** にする。



⑨乾燥終了(自動水分計の水分設定停止水分(%)以下又はタイマーが切れると乾燥機は自動的に停止する。)

自動水分計コメットーS使用の場合。

1 乾燥機のタイマーは？

タイマーで止っていることもありますから必ず確かめてください。

(タイマーの残り時間を見ておくと、次回のタイマーセットに役立ちます)

3 確かに仕上がってますか？

乾燥機の試料取出口などから取った試料を機外測定で確かめてください。

粳は必ず付属の粳すり器を使って玄米にして測ってください。

2 水分表示は設定と同じか？

途中で乾燥機のみ停止させると、平均値ではなく、停止水分(%)と同じ値を表示します。

故障の場合は点滅表示となります。

4 コメットーSの電源スイッチを切る

スイッチを切り忘れると次回の乾燥のとき乾燥機の点火ができません。

■酒米乾燥

搗精歩留りが問題になりますので、それぞれ地域の指導機関のご指導によって行ってください。

■種粳・種麦乾燥

発芽率が特に問題になりますので、それぞれ地域の指導機関のご指導によって行ってください。

麦の乾燥

■小麦乾燥

小麦乾燥で注意が必要なことは小麦のネバリのもとであるグルテン含有率を下げないようにしなければなりません。60℃以下で乾燥してください。

■麦の再乾燥(仕上げ乾燥)水分16%以下の麦

麦の再乾燥(仕上げ乾燥)を行う場合は7割以下の張込量としてください。

■ビール麦乾燥

あまり高温で乾燥すると発芽率、発芽勢が下がります。45℃以下で乾燥してください。

水分30%以上の高水分小麦を乾燥する場合、退色等の品質低下を招くおそれがありますので18～23%位までは40℃以下の温度で乾燥してください。

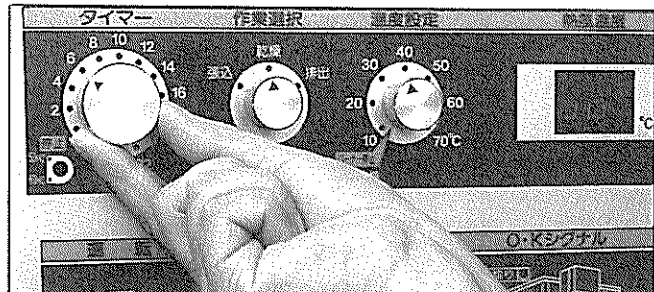
ただし、発育不良等の小麦の場合は、以上の様な乾燥操作をしても品質低下を防止できないことがあります。又、その年により乾燥方法を変える必要が生じる場合もありますので詳細についてはそれぞれの地域の指導機関等にご相談ください。

6.排出作業

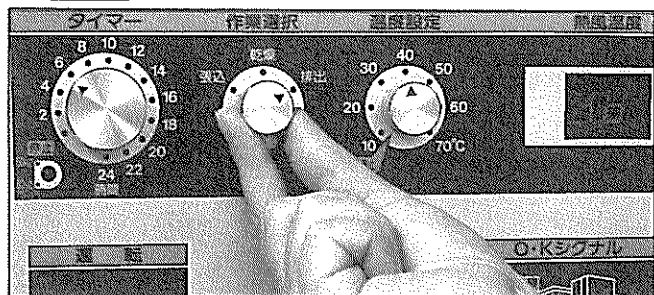
(排出の前には、必ず水分を確認してください。〈籾の場合は玄米で〉)

(1)運転操作

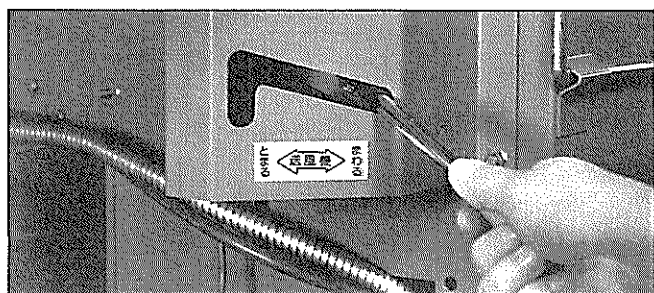
①タイマーをまわす。



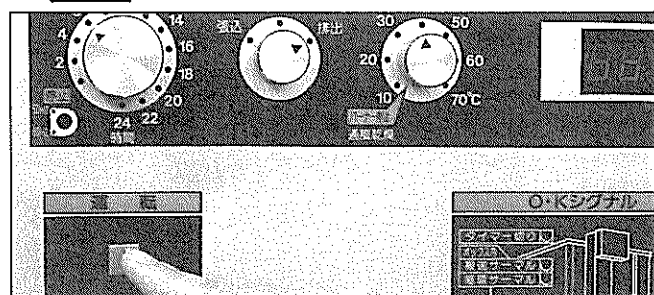
② 排出 にする。



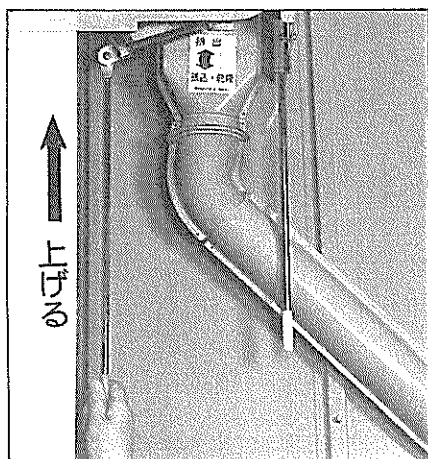
■排出時の送風運転—送風機レバーを「まわる」にする。



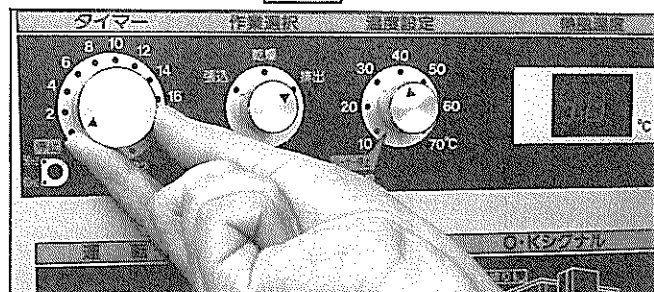
③ 運転 ボタンを押す。



④排出レバーを
「排出」にする。



⑤排出後タイマーを 停止 にする。



⑥排出レバーを「張込・乾燥」にする。

■排出スロワー使用の場合(排出スロワーは別売)

①排出スロワーの起動「ON」ボタンを押す。

②タイマーをまわす。

③ 排出 にする。

④ 運転 ボタンを押す。

⑤排出レバーを「排出」にする。

●途中で止めるときは、先に排出レバーを「張込・乾燥」にし、排出がなくなってから停止してください。

スロワーが詰まると、セーフティカットが作動し、スイッチが切れます。電源を切って掃除をしてください。

セーフティカットが一度作動すると、すぐにはスイッチが入りません。少し時間がたって(10~15分)から再度スイッチを入れてください。

(2)確認と注意

■籾すり作業は乾燥終了後1時間以上過ぎてから行ってください。

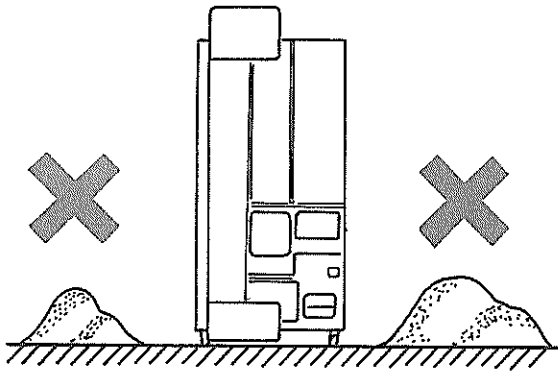
■籾すり前と出荷前の水分確認

籾すりや出荷までの期間が長い場合は、出荷前に水分の確認を行ってください。

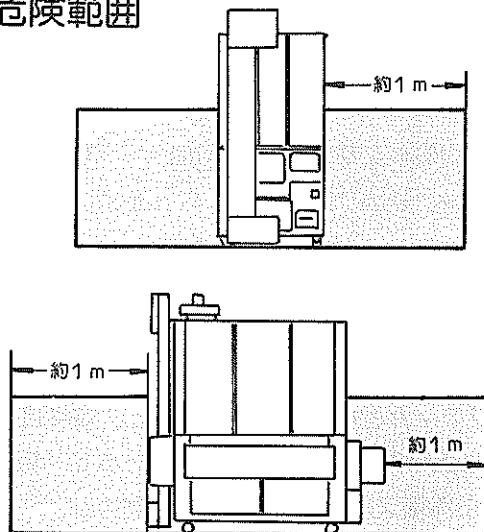
特に麦は梅雨期を経たからの出荷となりますので注意してください。

7.火災予防上の注意

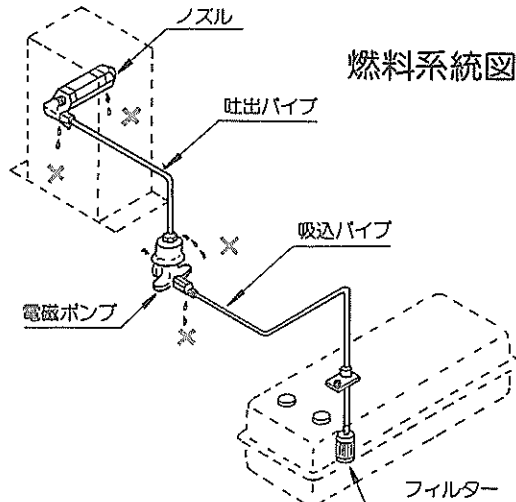
- ① ■燃えやすいものを、乾燥機の近くに置かないでください。



- ② 危険範囲

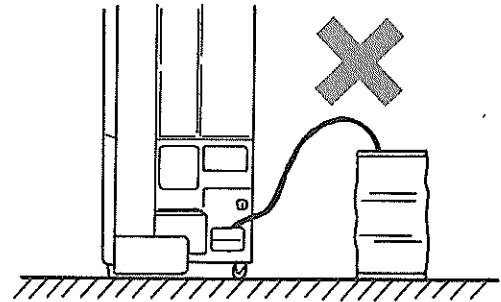


- ③ ■吸込・吐出パイプ接続部よりの油もれのないようにしてください。

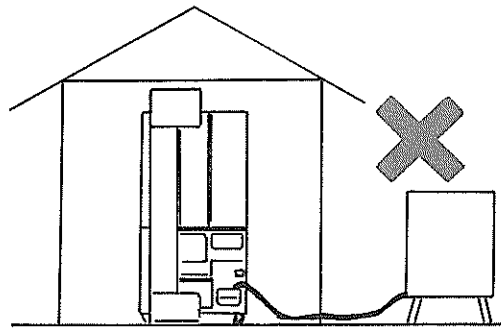


〈注〉無人運転を避け、時どき運転状態を確認してください。

- ④ ■燃料はドラム缶より直接とらないでください。
消防法で禁止されています。

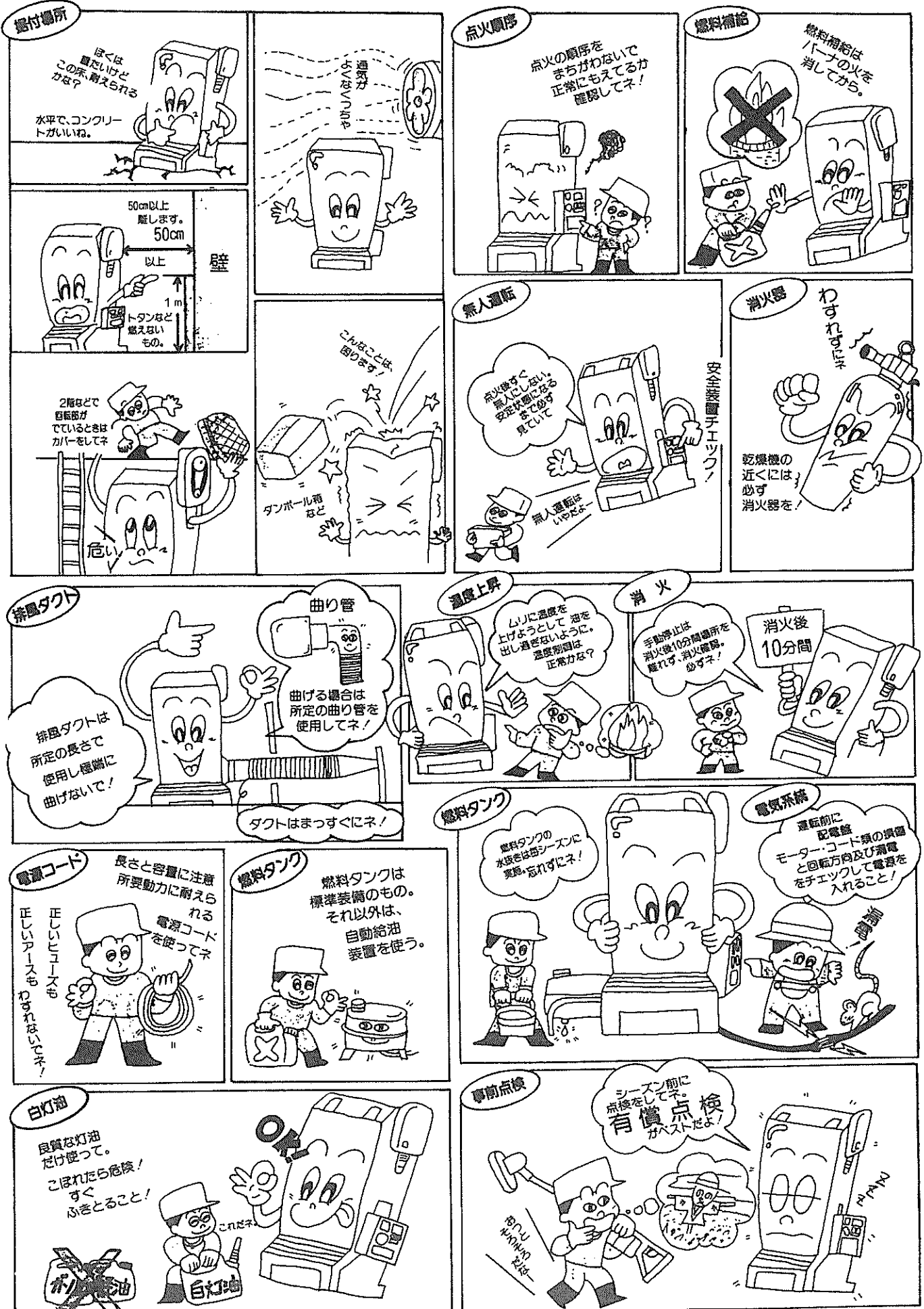


- ⑤ ■標準タンク以外からの直接の配管は絶対にやめてください。ポンプ流量が変わってしまい、燃焼が不安定になります。



- ⑥ ■燃料は新しい良質の白灯油を使用してください。
昨年の灯油は使用しないでください。
■年1回、乾燥前後に燃焼器の掃除をしてください。燃焼器にカーボン(すす)が付着しますと、着火不良、炎センサー誤動作、失火の原因になります。

安全チェック



8.保守と点検

機械を長もちさせるために乾燥が終わりましたら、
次の様な順序で手入れをしてください。

※その前に必ず電源コードをはずしておきましょう!!



手入れ箇所と手入れ法

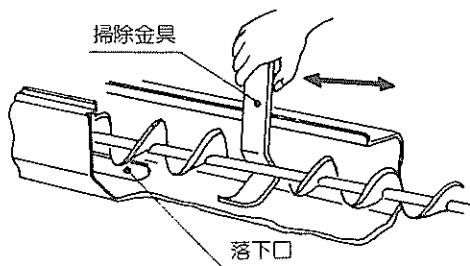
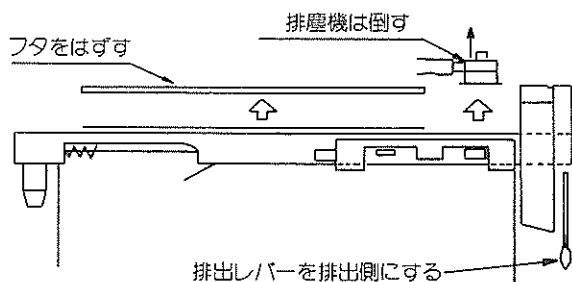
■手入れは乾燥機の上の方から順番に行います。

①

屋根をはずして乾燥機内部に入り、排塵機と上部スクリーン装置の掃除をしてください。

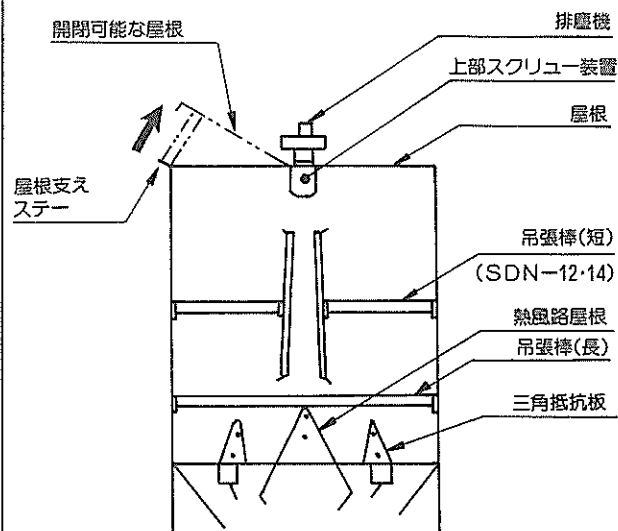
乾燥機内部に入り、掃除をするときは吊張棒(長)に絶対に乗らないでください。

排塵機は排塵筒をはずし、ネズミ防止フタを取り付けてください。(ネズミ対策)



②

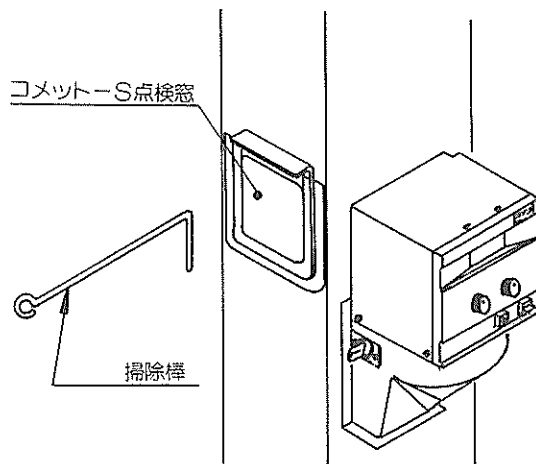
熱風路屋根、三角抵抗板等についているワラくず・穀粒を落としてください。



③

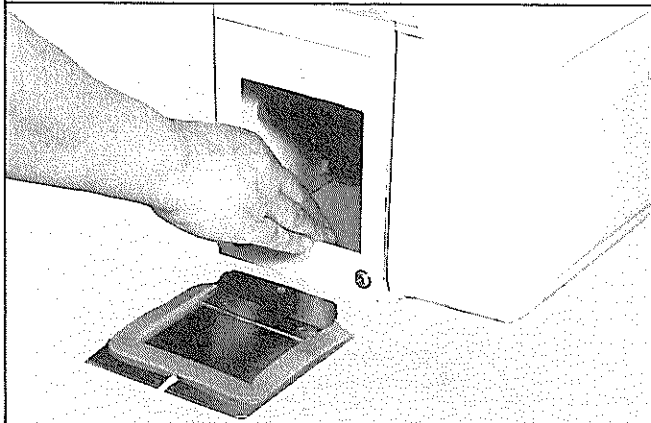
自動水分計コメットーS点検窓内部のシュートを付属の掃除棒で掃除してください。

(自動水分計は別売)



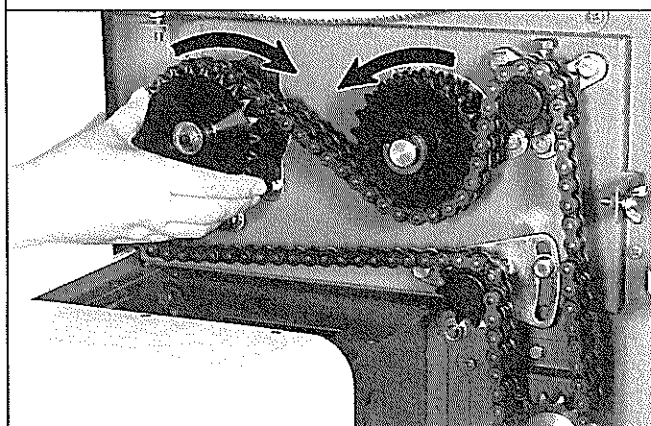
④

昇降機下部の掃除をしてください。



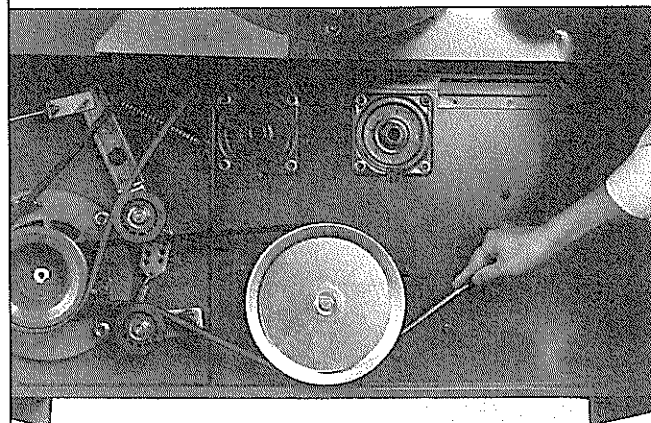
⑤

ロータリーバルブを回転方向に手でまわし、バルブ桶内の残穀を落してください。



⑥

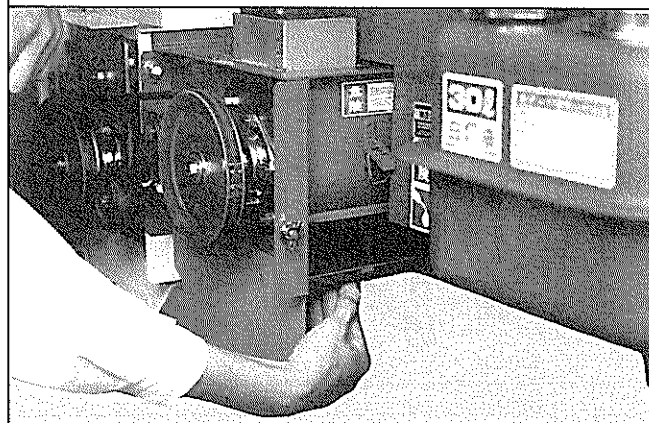
残穀処理レバーの金具をはずし、上下に2～3回動かしてください。



※金具は⑩が終わるまではずしておきます。

⑦

流穀筒の止金具をはずし、スクリー下部の残穀をかき出してください。

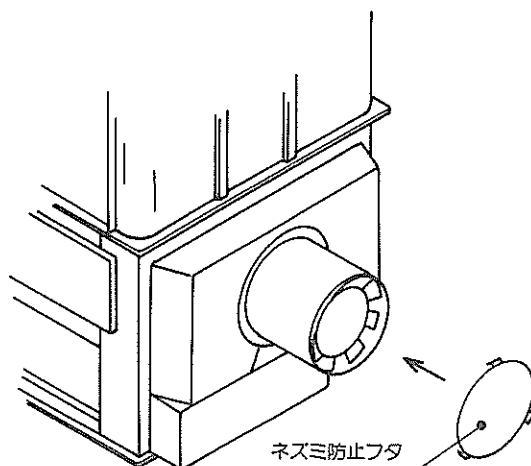


⑧

各掃除口を開けたまま、電源を接続し、**排出**の操作をして2～3分運転してください。

⑨

排風ダクトをはずし、ネズミにかじられない別の所へ保管してください。
送風機の掃除をしてください。
送風機にネズミ防止フタを取り付けてください。
(ネズミ対策)

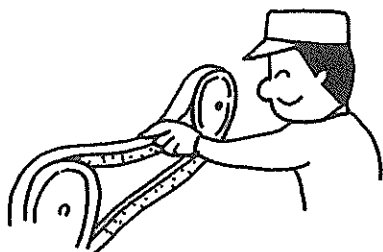


⑩

燃焼器の掃除をしてください。(20ページ参照)
(年1回程度)

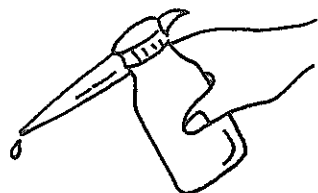
⑪

各部のVベルトはテンションバネをはずしてゆるめておいてください。
切れそうなベルトは早めに交換してください。



⑫

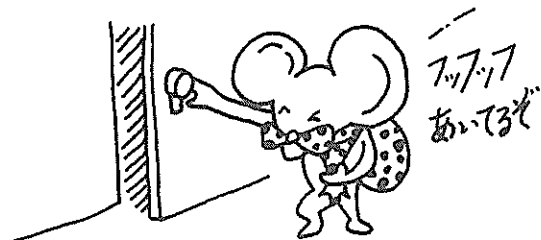
チェーンやスプロケットの点検、掃除。軸の部分へ注油をしてください。



(注)注油が多過ぎてベルトに掛からないように。

⑬

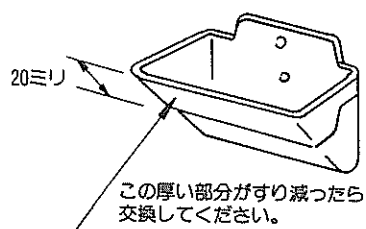
掃除が終わったら、張込ホッパー及び各掃除口は元通りに閉めてください。



⑭

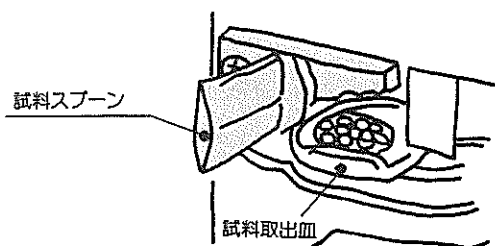
昇降機/バケットが摩耗すると揚穀量が減り昇降機のかみり原因となります。摩耗したバケットはベルトと一体で交換してください。

交換の目安



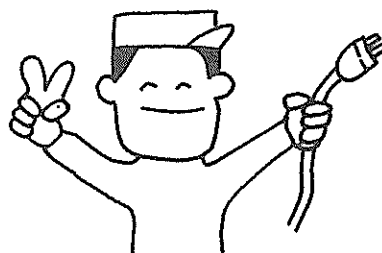
⑮

自動水分計の試料取出皿が試料スプーンの下に戻っているか確認してください。戻っていない場合は電源を入れて作動して正規の位置（スプーンの下）にしてください。（自動水分計は別売）



⑯

電源コードは元からはずしておいてください。電源を入れたままですと、雷などの影響で制御装置が損傷することがあります。

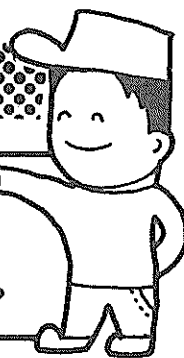


9. シーズン前の運転準備

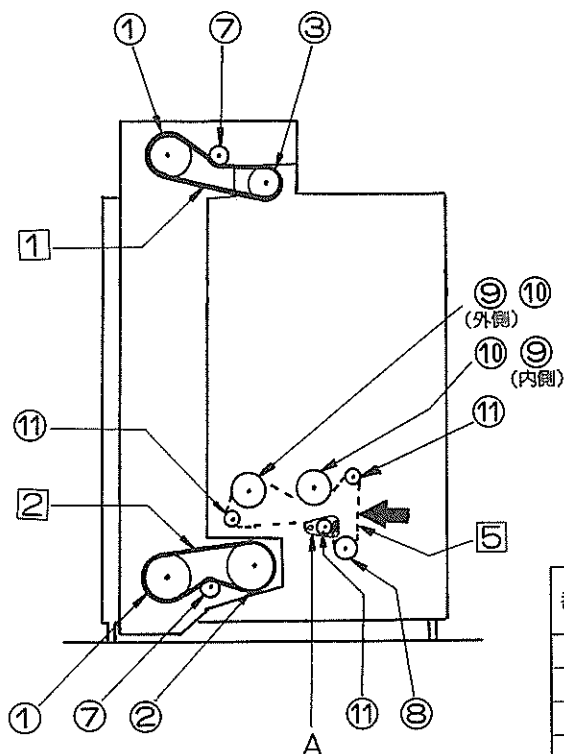
本機の点検

- ①各部の締め付けと回転部の点検をしてください。
- ②Vベルトの張り具合はスプリングテンション調節板またはテンションプーリーの移動で行います。

毎年乾燥作業前には
必ず点検をしましょう。

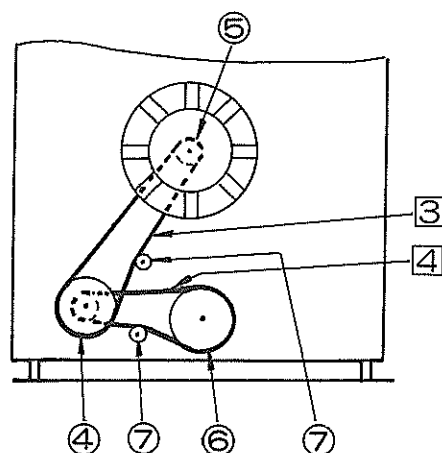


プーリーとVベルト



V ベルト

番号	名 称	寸 法
①	上部スクリュウ駆動Vベルト	LA(SA)-43
②	昇 降 機 駆 動 V ベ ル ト	LA(SA)-41
③	送 風 機 駆 動 V ベ ル ト	コグベルト-56
④	下部スクリュウ駆動Vベルト	LA(SA)-41/60Hz 〃 -42/50Hz

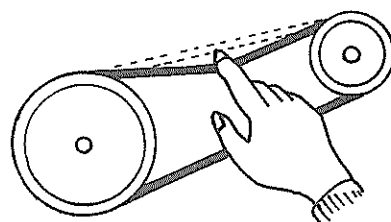


プ ー リ ー

番号	名 称	寸 法	
		50Hz	60Hz
①	昇 降 機 プ ー リ ー	φ139 349r.p.m.	
②	下部スクリュウプーリー(前)	φ127 382r.p.m.	
③	上部スクリュウプーリー	φ120 410r.p.m.	
④	搬 送 モ ー タ ー プ ー リ ー	φ118 967r.p.m. φ77.5	φ111 1,160r.p.m. φ84.5
⑤	送 風 機 プ ー リ ー	φ55 2,164r.p.m.	φ62 2,164r.p.m.
⑥	下部スクリュウプーリー(後)	φ185 382r.p.m.	
⑦	テンションプーリー(B)	φ58	
⑧	バルブ駆動スプロケット	#40 歯数15	
⑨	バルブ軸駆動スプロケット	#40 歯数23 (鉄)	
⑩	バルブ 軸 ス プ ロ ケ ッ ト	#40 歯数23 (樹脂)	
⑪	ガイドスプロケット	#40 歯数11	
⑫	チ ェ ー ン	60Hz #40×97 W部 25×2 50Hz #40×97 W部 29×2	

- ③Vベルトの掛け方、張りを確かめてください。張り具合はVベルトの真中を指で軽く押して10~15mmへこむ程度が適正です。(右図参照)
- ④チェーンの調節は、Aのテンションブラケットで行います。あまり張り過ぎないように上図↑印のところを指で押えて約3mm位へこむ程度です。
- ⑤機体内外の掃除をし、コード類のネズミ害を調べてください。

Vベルトの張り

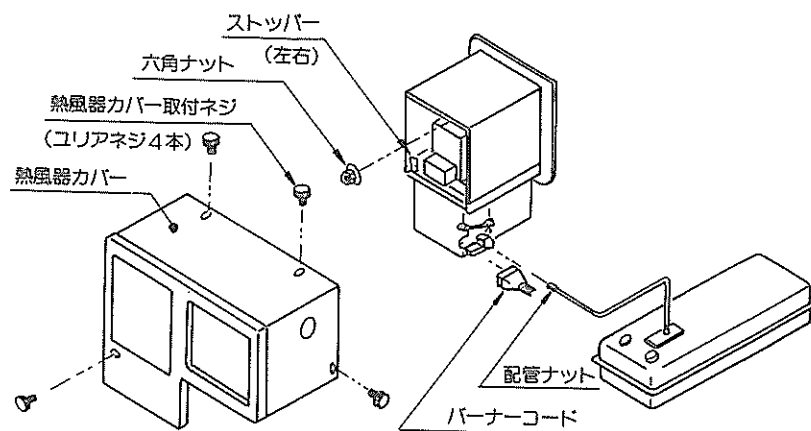


指で押えて10~15mmへこむ程度が適正。

バーナーの点検

— 火炉(バーナー)分解手順 —

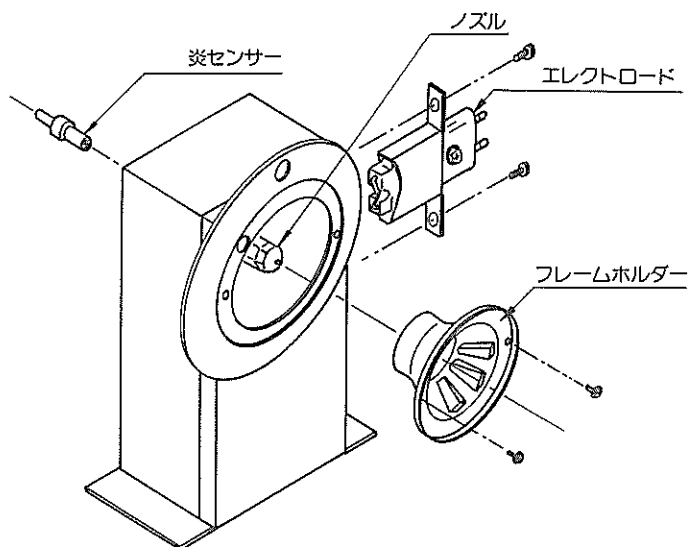
- ① 熱風器カバーをはずす。
- ② ポンプに接続されている配管ナットを取りはずす。(スパナをダブルにかけてください)
- ③ バーナーコードを抜く。
- ④ 燃烧室とバーナーを止めている六角ナットをはずす。
- ⑤ ストッパーを内側に倒し手前に引き出す。



— 掃除箇所 —

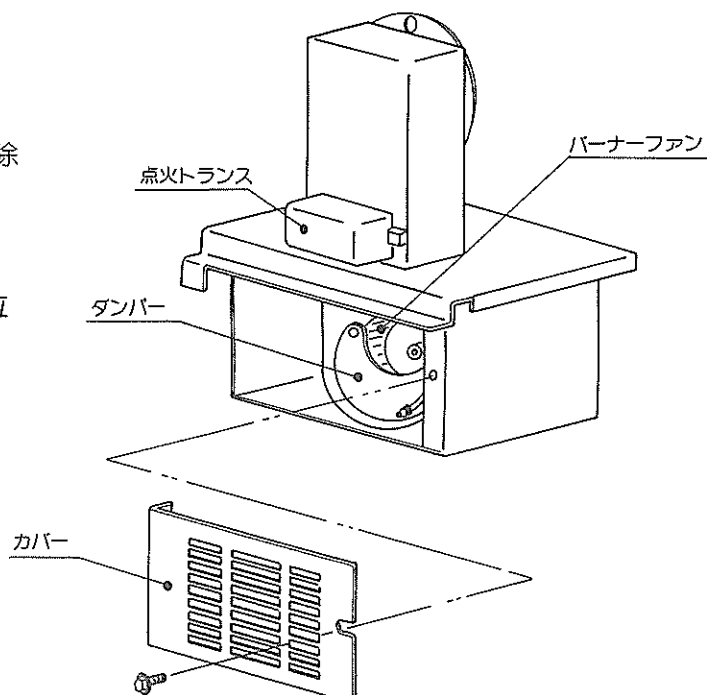
燃焼部

- ① エレクトロードをはずし、先端電極付近のカーボンを取り除きます。
ひび割れが入っていたら交換します。
- ② フレームホルダーをはずし、カーボン、ほこりを取り除きます。
- ③ ノズルは先端部のカーボンをやわらかい布でふいてください。ノズルの孔を針でつついたり、分解したりしないでください。
- ④ 炎センサーを引き抜き、ホコリをふいてください。
- ⑤ 炎センサー採光用のパイプ内を付属の掃除ブラシで掃除してください。



バーナーファン部

- ① カバーを取りはずします。
 - ② バーナーファンの曲面部のホコリを付属の掃除ブラシで取り除いてください。
- 組み付けは分解と逆の順序で行ってください。
 〈注〉組み付けの際、ダンパー開度は必ず最初の位置にあわせてください。



昇降機の点検

ベルトの張りは、昇降機の下部で行ってください。

燃焼関係の準備と点検

■熱風器の準備と点検

熱風器付近の換気をよくし、常に新鮮な空気が入るようにしてください。ただし外部から風が吹き込むような場合は風よけをしてください。(5ページ) 燃えやすいものなどを近くに置かないようにしてください。(14ページ)

■燃焼器の点検

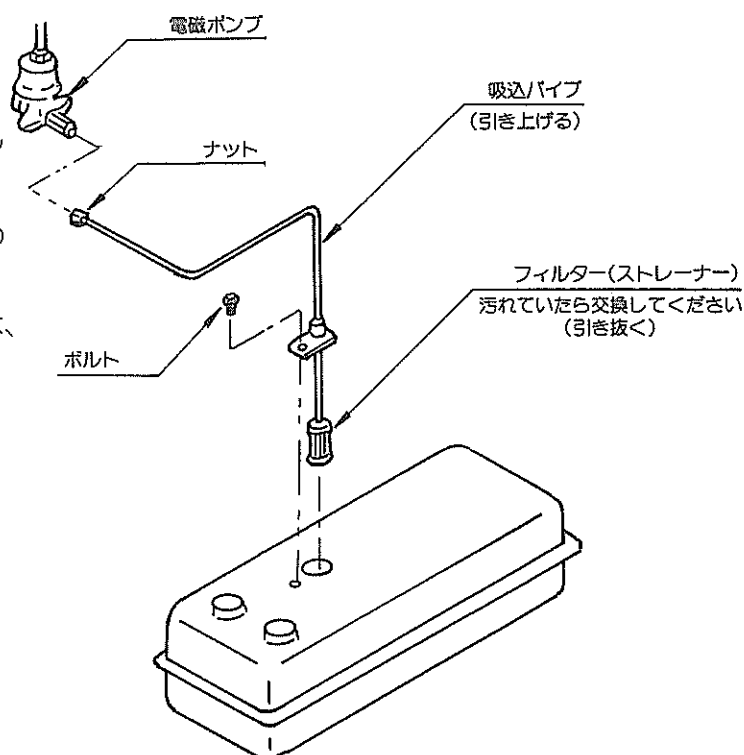
火炉(バーナー)の手入れは前ページを参照して点検してください。

■燃料タンクの点検

燃料系統不調の場合はフィルターの目づまりによる場合が多くみられます。フィルターはタンク内にあります。フィルターは消耗部品ですので、つまった場合は交換してください。

フィルター(ストレーナー)の点検

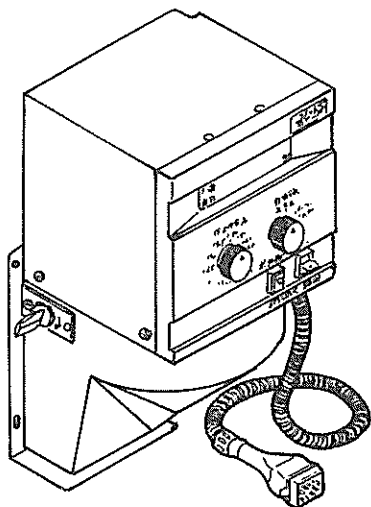
- ①バーナー部についてる電磁ポンプ吸込側のナットをはずす。
- ②燃料タンク部に固定している六角ボルトをゆるめパイプを引き抜く。
- ③フィルター(ストレーナー)が汚れている場合は、交換してください。
そのまま引き抜くと、はずれます。



10. 便利な別売部品(オプション)

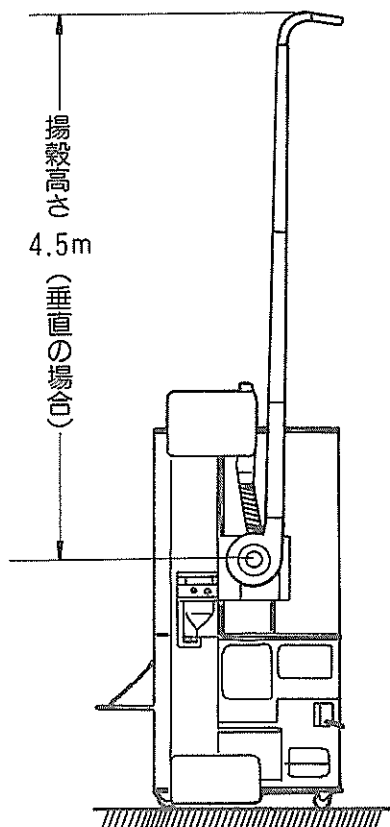
■自動水分計コメット-S(CS-5)

乾燥機本体と一体設計の、専用自動水分計です。
このコメット-S・CS-5型は永年の技術的蓄積に基づいて開発した全く新しい制御方式の自動水分計です。



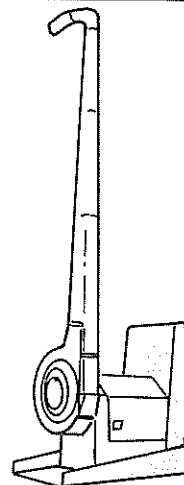
■排出スロワー(HH-14A)

乾燥の終了した穀(麦)を遠方の貯蔵庫や2階の貯蔵庫に排出する場合にお使いください。



■スロワー床置台(UU-14)

地上に排出スロワーを置く場合にお使いください。



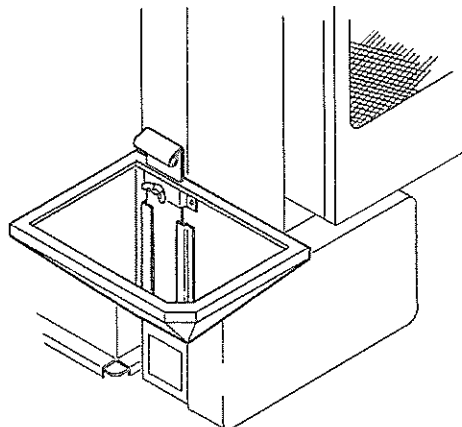
■前張込装置(FF-35S)

床上30cmと低いので紐袋を持ち上げずに張り込むことができます。



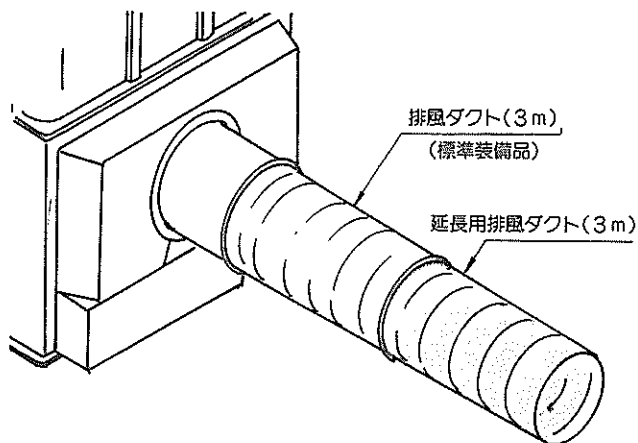
■昇降機ホッパー(YY-03)

昇降機用張込ホッパーです。左・右の張込ホッパーが使えないときにご利用ください。



■延長用排風ダクト

排風ダクトの延長にお使いください。(ダクトはできるだけ曲げないようにしてください。)

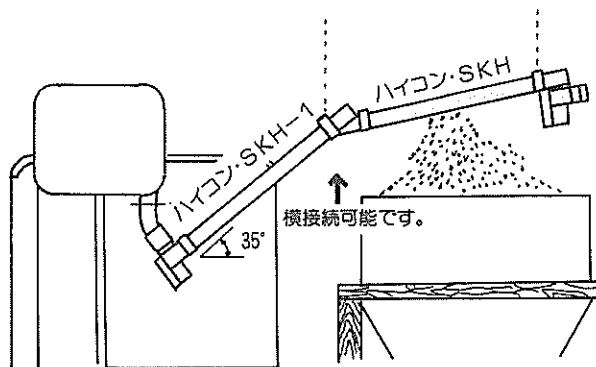


■はんそう機

縦にも横にも紐を傷めずに送ることができます。

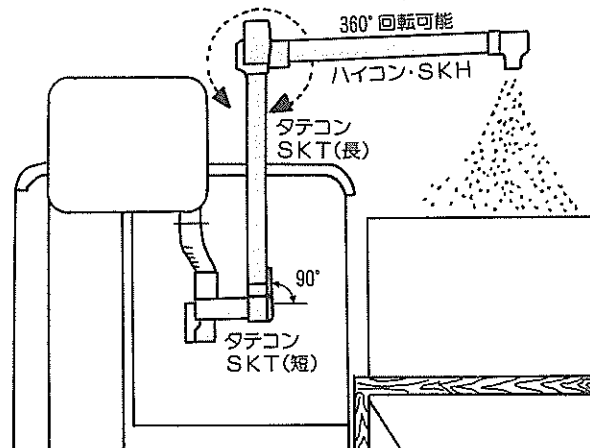
乾燥機とセットでお使いください。

横送り用の組み合わせ例



型 式	ハイコン・SKH
全 長	1,700mm
搬 送 量(毎時)	縦・傾斜時6000kg(容積60石)水平時9000kg
搬 送 距 離(1本)	1,500mm (有効長)
据付傾斜角度(最大)	35°
使 用 動 力	単相 100V100Wコンデンサー付 サーマルプロテクター組込
回転数 50サイクル	680r.p.m
重 量	16kg
接 続 本 数	自 由

縦送りと横送り用組み合わせ例



型 式	タテコン・SKT(長)	タテコン・SKT(短)
全 長	1,700mm	500mm
搬送量(時間当り)	縦6,000kg(容積60石)	縦6,000kg(容積60石)
搬 送 距 離	1,500mm(有効長)	300mm(有効長)
据付傾斜角度(最大)	90°(垂直)	35°
使 用 動 力	単相 100V250W分相始動型 サーマルプロテクター組込	単相 100V100Wコンデンサー付 サーマルプロテクター組込
回転数50サイクル	980rpm	680rpm
重 量	22kg	11kg
接 続 本 数	自 由	

11.故障と対策

●サービスマンを呼ぶ前にまずご自分で点検してください。

■O・Kシグナルが点灯する場合

O・Kシグナル点灯	原因	対策	ページ
タイマー	タイマーで自動停止した。	運転の終了で異常ではありません。	
	タイマーを入れてない。	タイマーのツマミを右へまわしてください。	
搬送モーター (ブザー鳴る)	搬送モーターのサーマルリレー(OL-1)が作動した。	下部スクリュー、昇降機等のつまり、ワラくず、Vベルトの張りすぎ等を調べて調整し、サーマル復帰レバーを押してください。	P-29
循環モーター (ブザー鳴る)	循環モーターのサーマルリレー(OL-2)が作動した。	チェーンの張りすぎ、ロータリーバルブの異物かみ込み等を調べて調整し、サーマル復帰レバーを押してください。	P-29
電源ヒューズ (ブザー鳴らず)	電源ヒューズが切れた。	電源トランス、サージアブソーバー、コントロール基板、水分計モーター等を点検し不良部品を交換してからF1ヒューズ(3A, 250V)を交換してください。	P-29
100Vヒューズ (ブザー鳴らず)	100Vヒューズが切れた。	電磁開閉器、電磁ポンプ、タイマー等の各コイルのショートの有無を確認し、不良部品を交換してからF2ヒューズ(2A, 125V)を交換してください。	P-29
サーモスタット (ブザー鳴る)	サーモスタットが作動した。	過熱状態となった原因を調べ、自然放冷してください。	
バーナーファン (ブザー鳴る)	圧力スイッチが作動した。	バーナーファンが不良の場合は部品交換してください。	P-20
炎センサー (ブザー鳴る)	失火した。	1. 燃料切れを確認してください。 2. 点火不調の場合は27ページの“点火しない”の項を参照してください。 3. 乾燥途中で火が消える場合は、27ページの“乾燥途中で火が消える”の項を参照してください。	P-27
	風圧スイッチが作動した。 (電磁ポンプが動かない)	●モーターの回転が逆ではないか確認してください。 ●張込口・屋根部などが開いていないか確認してください。 ●送風機が回転しているか確認してください。 (Vベルト切断、コネクター抜け、コードの断線、モーターの故障など) ●送風機にネズミ防止フタがついていないか確認してください。 ●排風ダクトが無理に曲げられたり、押えられたりしていないか確認してください。	P-17 P-5
緩づまりセンサー (ブザー鳴る)	緩づまりセンサーが働いた。	昇降機下部の緩(麦)を取りのぞき、Vベルトの張りを調整し、バケットの摩耗を調べてください。	P-17・18・19
(注)ヒューズ関係のO・Kシグナル点灯の場合、ヒューズホルダーとヒューズの接触不良が考えられます。その場合は、一旦、ヒューズをはずし、ホルダー間隔をせまくしてからヒューズを入れなおしてください。コネクターぬけや断線、接触不良の場合でも、回路はセンサー作動として受けつけますので各部の点検をしてください。			

乾燥機デジタル表示が H L HH となる場合

デジタル表示	O・Kシグナル 熱風温度センサー	ブザー	理 由 又 は 状 況	確 認 方 法 と 処 理
L の連続	点灯しない	鳴らない	熱風温度が0℃以下になったとき L と表示する。	設定温度を40℃程度に設定して運転してください。5分程度で設定温度になれば正常。 デジタル表示が L 又は H のままのときは熱風温度センサー又は回路基板の故障。
H の連続			熱風温度が71℃以上になったとき H と表示する。	
L の点滅	点灯する	鳴る	熱風温度センサーが断線状態(200 k Ω 以上)となり、温度制御ができない。	●熱風温度センサーの故障。 抵抗値をテスターで確認する。 ●回路基板の故障。
H の点滅			熱風温度センサーが、ショート状態(4 k Ω 以下)となり、温度制御ができない。	
HH の点滅	点灯しない	鳴る	設定温度に対し、5℃以上高い状態が5分間続いたとき、異常高温と判断して、燃料停止となる。	●熱風温度センサーの故障。 抵抗値をテスターで確認する。 ●回路基板の故障。
			設定温度が外気温度より5℃以上低く設定されたとき、異常となり着火しない。	

電気・電子部品取扱い上の注意点

1. きれいな手で部品を取り扱ってください。水や油、ホコリが付着しますとショート、漏電、接触不良、腐蝕等により部品不良が発生する場合があります。
2. 部品をていねいに取り扱いってください。投げたり落としたりしますと、部品の損傷・破壊につながります。
3. コントロールボードを取り扱う際には、直接 IC のピンに手でふれないでください。静電気により IC が破壊され思わぬトラブルになることがあります。
4. コントロールボードに、みだりにテスター棒を当てないでください。素子によっては、電氣的に破壊されるものもあります。
5. 制御系のチェックをする場合には、特に必要でない限り電源を切って行ってください。通電中にコネクタの抜き差しを行いますとトラブルにつながる場合があります。



●乾燥作業で問題になることが発生しても容易に対策できることが多くあります。

●サービスマンを呼ぶ前にまずご自分で点検してください。

■電気・モーターに関すること

故障のようす	原 因	対 策	ページ・図
感電する。	1.アースがとってない。 (切れている。)	アースをしっかりとってください。 元電源のアース線を確認してください。	P-4
	2.誤配線。	元電源(柱、壁)の配線を確認してください。	
タイマーを入れても運転ができない。	コメットーSで停止したままになっている。	コメットーSのスイッチを一度切ってから運転してください。	P-12
搬送モーターがまわらない。	1.サーマルリレーが働いている。 (復帰レバーが出ている。)	サーマルリレーの働いた原因を取り除いてから復帰レバーを押してください。 (OL-1)	P-29
	2.モーターの欠相運転。	電源ランプを確認。結線および電源ヒューズが切れていないか確認してください。	P-4
	3.モーター不良。	確認のうえ、不良ならば交換してください。	
	4.スイッチ・コネクタの接触不良。	点検後、接触をよくしてください。	
	5.電圧降下。	電力会社へ連絡してください。 180V以下 使用不能	
	6.糞づまりセンサーが働いている。	働いた原因を取り除いてください。つまった糞(麦)を取り除いてください。	P-17
	7.糞づまりセンサーコードが抜けている。又は途中で切れている。	コネクタをしっかりと差し込む、又はコードの損傷を直してください。	P-29
送風機がまわらない。	1.送風機レバーが「まわる」になっていない。	送風機レバーを「まわる」にしてください。	P-10
	2.ベルトがゆるんだり、切れている。	Vベルトの張りを点検し調整してください。	
循環モーターがまわらない。	1.サーマルリレーが働いている。 (復帰レバーが出ている。)	サーマルリレーの働いた原因を取り除いてから復帰レバーを押してください。 (OL-2)	P-29
	2.モーター不良。	確認のうえ、不良ならば交換してください。	
張り込み中、または乾燥中に昇降機がつまる。	1.昇降機バケットベルトのゆるみ。	調整してください。	P-21
	2.昇降機駆動ベルトのゆるみ。	調整してください。(LA-41、LA-43)	P-19
	3.下部スクリュー駆動Vベルトのゆるみ。	調整してください。(LA-41、LA-42)	P-19
	4.循環中パルプからの落下量が多すぎる。	ご購入先で点検、調整をしてもらってください。	
	5.バケットがとれている。	とれているところは付け直し、ゆるんだボルト・ナットはしっかりと締めてください。	
	6.配穀レバーが「張込」位置になっていない。	配穀レバーを「張込」の位置にしてください。	P-8

■バーナー(熱風器)に関すること

故障のようす	原因	対策	ページ・図
点火しない。	1. 燃料切れ。	燃料タンクの燃料を確認してください。	
	2. フィルターのつまり。 継手のゆるみ。	フィルターのつまり、吸込パイプのナットのゆるみ等を確認してください。	P-14・21
	3. 点火スパークがとんでいない。	点火トランスのコネクターの確認。エレクトロードの掃除および間隔(電極間3.6mm)を点検してください。	P-20
	4. 点火トランスの不良。	点火トランスを交換してください。	P-20
	5. 電磁ポンプの不良。	電磁ポンプを交換してください。	P-21
乾燥途中で火が消える。	1. 燃料切れ。	燃料タンクの燃料を確認してください。	
	2. 各部コネクターの接触不良。	各部コネクターがしっかり差し込まれているか確認してください。	P-29
	3. フィルターのつまり。 継手のゆるみ。	フィルターのつまり、吸込パイプのナットのゆるみ等を確認してください。	P-14・21
	4. カーボン(すす)付着。	燃焼器、特にノズル先端フレームホルダー部分、炎センサー採光口付近、パイプの中のカーボン(すす)の掃除をしてください。	P-20
	5. 炎センサーのよごれ。	炎センサーを抜き、先端部分のホコリを掃除してください。	P-20
電磁ポンプが作動しない。 (振動がない) (燃料が流れない)	1. 電磁ポンプの差込プラグの抜け又は抜けかかり。	コネクターにしっかり差し込んでください。	
	2. ポンプ自体が振動しない。	ポンプを交換してください。	
	3. 電磁ポンプが新品またはしばらく使用していない時にプランジャーがはりついている。	ポンプを軽くたたいてください。	
電氣的故障でない場合の電磁ポンプ吸上不良。 (ポンプに手をふれると振動がある)	1. フィルターの目づまり。	フィルターの洗浄又は交換してください。	P-21
	2. パイプの継手がゆるみ空気がはいる。	継手部をしっかり締め付けてください。	P-14
	3. パイプ内部に空気がたまっている。	点火動作を数回くり返してください。	P-10

■乾燥に関すること

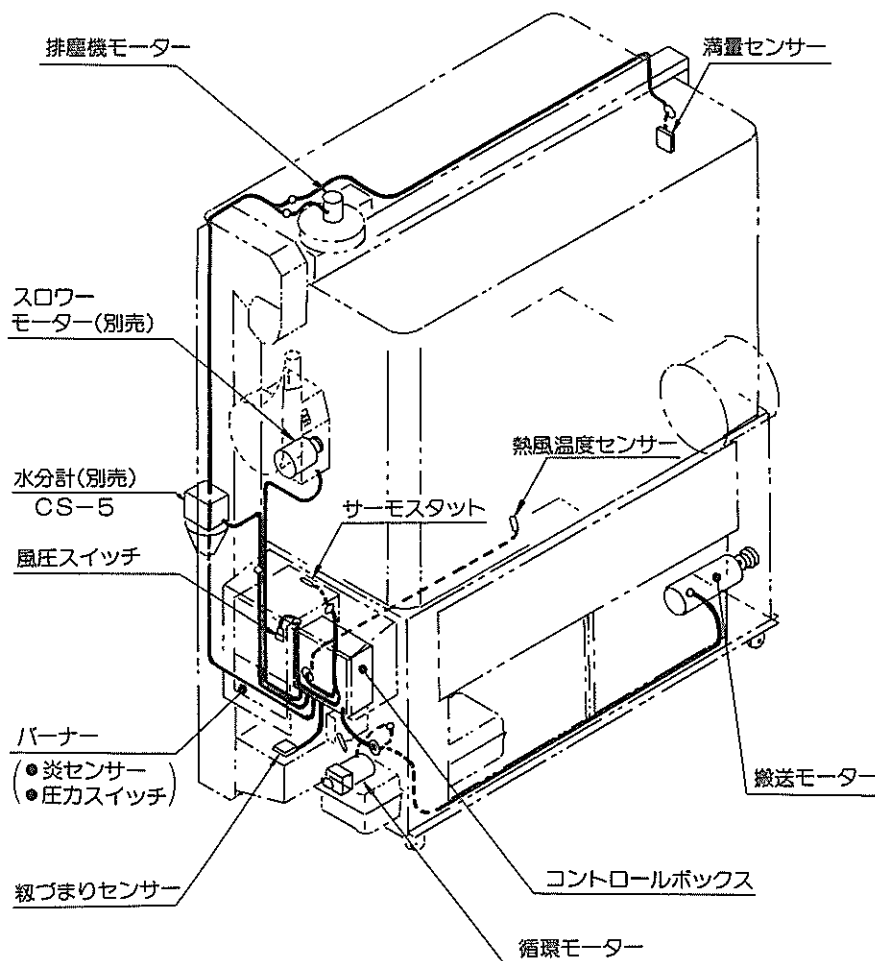
故障のようす	原因	対策	ページ・図
乾燥時間が長くなりすぎる。	1. 熱風温度が低すぎる。	地域の一般的な使用温度と比較して低すぎたら高くしてください。	
	2. 排気の戻りか、夜間湿った空気を吸いすぎている。	排風ダクトは確実に屋外に出してください。湿度の高い夜間運転は早目に打ち切り、翌日仕上げるようにしてください。	
	3. 送風機(吸引)の回転が落ちている。	電圧低下の場合は、電力会社へ連絡してください。(180V以下使用不能)	
	4. 乾燥前の水分が高すぎる。	適期刈取りを励行してください。	
	5. 排風ダクトの抵抗が大きく風量が低下している。	排風ダクトを曲げずにピンと張ってください。	P-5
	6. 水分計部のシュート(昇降機に付いている)が詰まっている。	点検窓から掃除してください。	P-16

■乾燥に関すること

故障のようす	原 因	対 策	ページ・図
ムラ乾燥になる。	1. 粳の水分が高すぎて乾燥機の内面にはりつく。	少量で乾燥してください。	
	2. ワラくず、ゴミ等が多過ぎ乾燥部がつまる。	ワラくず、ゴミ等を取り除いてください。(乾燥機内部に入って調べる。)	P-16
	3. 何らかの原因でバルブがまわらない。	原因を調べて調整してください。異物のかみ込みがないか。(機械内部を調べる。)	P-20
	4. 乾燥前の粳(麦)の水分差が大きい。	初期水分に3~5%以上も差があるときは別々に乾燥してください。また、水分の高いものは低いものと同じ水分になるまで乾かしてから一緒にしてください。(二段乾燥使用)	別冊 (自動水分計取扱説明書)
	5. 枝梗付の粳(麦)が多い。	選別してから張り込んでください。	
	6. 三角抵抗板の組み付け位置がずれている。	長穴の中央が標準位置です。穀物流れの悪い側へ三角抵抗板を傾けてください。	P-16及び組立のしおり
過乾燥になる。	1. 水分ムラの多い粳(麦)。 2. 未熟粒・青米が多い粳(麦)。	水分差の極端に多いとき(3~5%以上の差)は分けて乾燥してください。	別冊 (自動水分計取扱説明書)
水分過多になる。	1. 水分ムラの多い粳。	水分差の極端に多いときは分けて乾燥してください。二段乾燥してください。	
	2. 未熟米が多く、乾燥後水分が戻った。	乾燥後の貯蔵を長期間しないてください。二段乾燥してください。	
	3. ワラくず等が多く循環不良を起している。	ワラくず等を取り除いて張り込んでください。	
水分が合わない。	1. 穀物特性による差。	コメントパックで調べて差が認められたら水分目盛の調整をします。	別冊 (自動水分計取扱説明書)
	2. 検査の水分計と合っていない。	水分目盛の調整をしてください。	
胴割米 } 碎 米 }が多い。	1. 乾燥の前に脱ぶ(皮のむけた米)、半脱ぶが多い。	刈り取り時期と脱穀機の回転に注意し、半脱ぶ米はなるべく低温でゆっくり乾燥してください。	
	2. 熱風温度が高すぎる。	張込量と熱風温度に注意してください。	P-11
	3. 乾燥後の処理が悪い。	乾燥終了後急に冷したり、湿気を当てることはさけてください。	
	4. 過乾燥。	乾燥中に時々水分を測定してください。タイマーと自動水分計のセットを間違わないようにしてください。	
	5. 循環不良。	点検し、調整してください。	
	6. スクリュー軸が振れ樋に当る。	樋がへこんでいないか確かめてください。回転数が正常か、プーリーが規定のものか使用されているか確認してください。	P-19
	7. 少量の粳を長時間乾燥した。	最少380kg以上で乾燥してください。	P-11
	8. 収穫時期が遅れた粳。	ゆっくり乾燥してください。	P-11

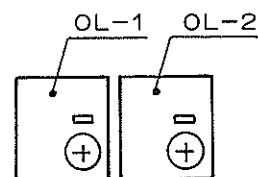
12.各部の接続と定格

モーターとセンサー類の接続図



サーマルリレーの電流設定値

記号	モーター名称	設定値	
		単相	三相
OL-1	搬送モーター	8.2A	4.6A
OL-2	循環モーター	0.7A	0.7A

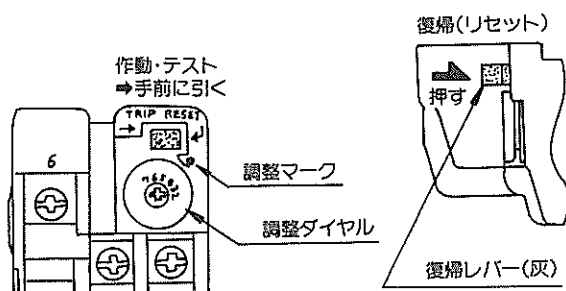


ヒューズ定格

記号	ヒューズ名称	定格
F1	電源ヒューズ	3A・250V
F2	100Vヒューズ	2A・125V



※サーマルリレーの復帰



※サーマルリレーの復帰、ヒューズの交換の時は、
熱風器カバーをはずしてください。

負荷定格

負荷名称	定格(kW)	張込	乾燥	排出
搬送モーター	0.65	○	○	○
循環モーター	0.06	×	○	○
排塵機モーター	0.06	○	○	○
その他コントロール	0.1	○	○	○
水分計 CS-5	0.045	×	□	×
排出スロワーモーター	0.4	×	×	(□)
合計 (kW)		0.81	0.915	0.87 (1.27)

○：自動運転、×：停止、□：別売部品

注)1. 水分計CS-5、排出スロワーは別売部品です。

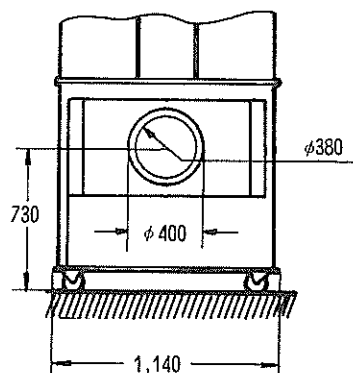
注)2. ()内の数字はスロワー使用時。

13.据付寸法図

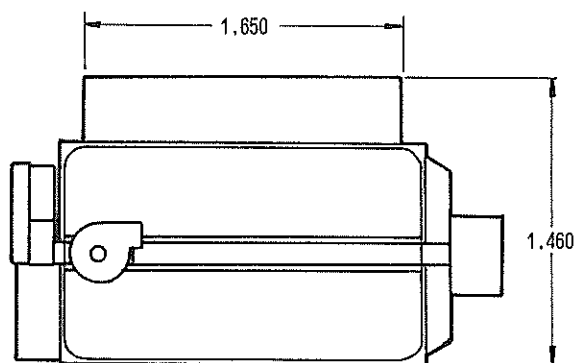
〈注〉据付けは周囲1 m位開けてください。

単位：mm

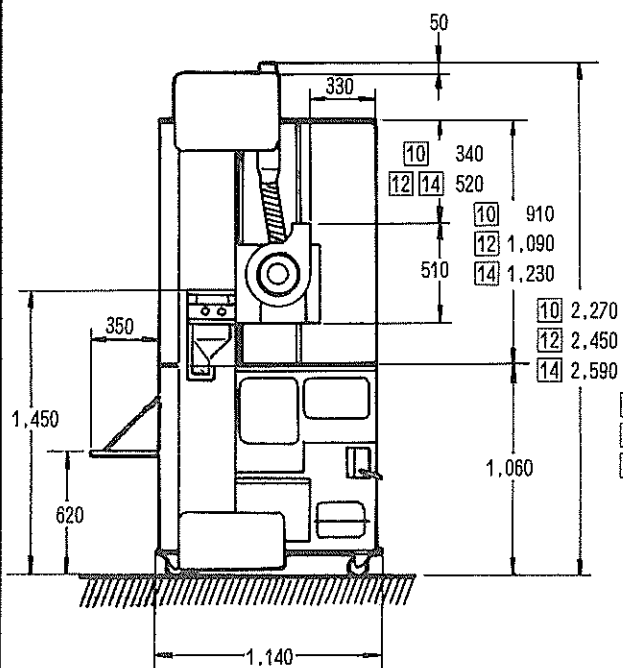
《後から見た所》



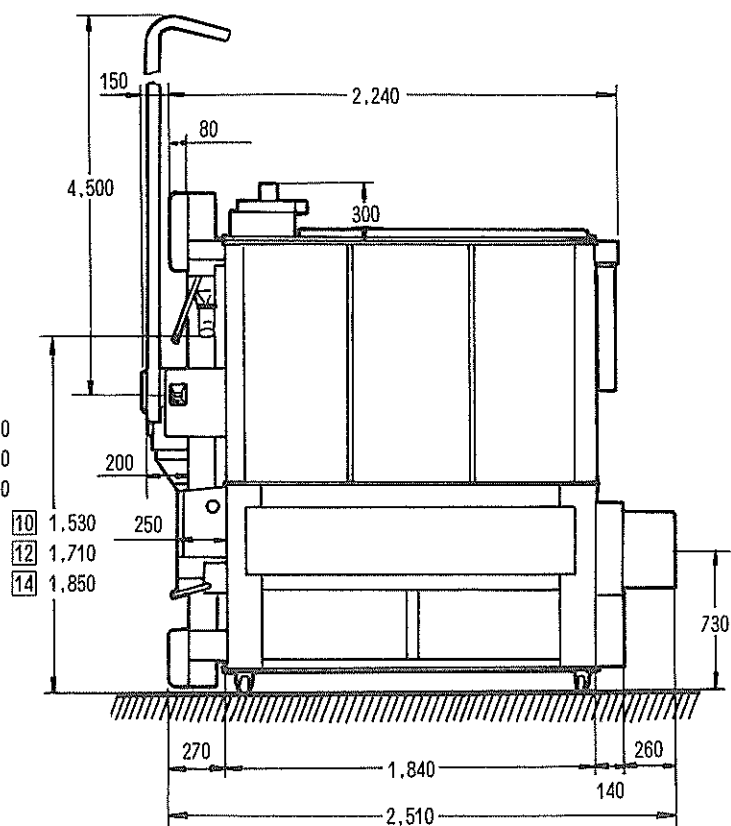
《上から見た所》



《前から見た所》



《横から見た所》



フロンツパネル操作盤

タイマー	作業選択	温度設定	熱風温度

運 転

SDM

0.6kg信号

タイマー切り ●
 ホッパ内 搬送サーマル ●
 循環サーマル ●
 ホッパ内 電源ヒューズ 100Vヒューズ ●
 サーマスタット ●
 パーサー ●
 送センサー・風圧スイッチ ●
 類つまりセンサー ●

静音国産機

※この取扱説明書の仕様は、改良のため予告なく変更する事があります。その場合、内容が多少異なることがありますのでご諒解ください。